31-226
エト1×15
№234/

凡例

一此書紀伊繁昌誌と題し而して南北牟婁郡に筆を及ぼさざるは其地十數年來他縣の管下に屬し資料を蒐集すること易からず調査未だ半ならざるに編者事故ありて上京し遂に憾を遺して東牟婁郡に止むるに因る讀者幸に之を恕せよ

一本書の資料は家に傳ふる古書數十卷を以て或は實地に臨んで之を照合し或は各地に知人に托して之を質し其據る處あるものを拔き牽强附會信するに足らざるものは總て之を省けり

一本縣下大小の城趾百九十餘多くは其事歷を詳にせず茲には唯其著しきものを揭ぐるのみ

凡例

一書中統計に關する項にして特に調査の年月を附記するものを除く外は總て明治二十三年和歌山縣統計書に據る

一書中和歌山市に記事唯り其体裁を異にすると事物混淆よして閲覧に便ならさると慮れるなり

紀伊繁昌誌目次

總説

地理○沿革○戸數及人口○田畑宅地反別○縣官○帝國議會議員○縣會議員○交通○敎育○地形變遷

和歌山市

概説

番町組

舊蹟○神社並敎會○官衙○敎育○新聞紙○衛生○代言人○銀行會社○雜錄○商工業者及雜業者○廣告

內町組宇治組

町名○舊蹟○神社佛閣並敎會○敎育○衛生○公證人○代言人○橋梁○劇場○銀行會社○雜錄○商工業幷

雜業者○旅人宿○廣告
廣瀨組新町組
町名○名勝舊蹟○神社佛閣並教會○教育○衛生○代言人○橋梁○銀行會社○雜錄○商工業幷雜業者
湊組吹上組
町名○名勝舊蹟○神社佛閣並教會○官衙○教育○雜誌○衛生○代言人○橋梁○會社及工場○雜錄○商工業及雜業者○廣告
海部郡
地理○沿革○名邑○名勝舊蹟○神社佛閣○教育○衛生○產物○商工業及雜業者
名草郡
地理○沿革○名邑○名勝舊蹟○神社佛閣○交通○官署○教育○雜誌○衛生○產物○雜錄○商工業及雜業者
那賀郡
地理○沿革○名邑○名勝舊蹟○神社佛閣○交通○官署○教育○衛生○產物○商工業及雜業者
伊都郡
地理○沿革○名邑○名勝舊蹟並神社佛閣○交通○官署○教育○雜誌○衛生○產物○會社○商工業者○旅人宿
有田郡
地理○沿革○名邑○名勝舊蹟○神社佛閣○鑛泉○交通○官署○教育○衛生○產物○商工業及雜業者○旅人宿
日高郡

地理○沿革○名邑○名勝舊蹟○神社佛閣○鑛泉○交通○官署○教育○雜誌○衛生○產物○農商工業者○旅人宿

西牟婁郡

地理○沿革○名邑○名勝舊蹟○神社佛閣○鑛泉○交通○官署○教育○衛生○代言人○產物○銀行會社○商工業及雜業者○旅人宿

東牟婁郡

地理○沿革○名邑○名勝舊蹟○神社佛閣○鑛泉○交通○官署○教育○衛生○產物○銀行會社○商工業及雜業者○旅人宿

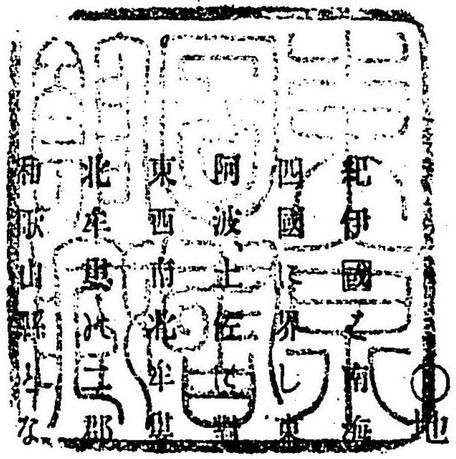
明治新撰

紀伊繁昌誌

總說

○地理

紀伊國之南海道の最東に位し北東は和泉、河內、大和、伊勢、の四國に界し東南は大平洋に瀕し西之紀淡海峽を隔て淡路、阿波、土佐に對し和歌山市及ひ名草、海部、那賀、伊都、有田、日高、東西南北牟婁の十郡に分れ地形恰も半環狀を成す現今南北牟婁の二郡と三重縣ふ屬し其他の一市八郡と總括して和歌山縣となす



和歌山縣之西經(東京天文臺を起点とす)三度四十六分より四度四十八分北緯三十三度二十五分より三十四度二十三

分の間は位ゑ東西凡二十三里南北凡二十四里周圍百六十九里餘幅員三百十方里餘はゑて縣は西北と沃田膏野相連なると雖ども東北は大小の山脈四方に蜿蜒し高峰峻嶺遠近に峙立す又葛城山脈と河泉二州の境にあり逶迤西走して海ゑ入る山嶽の著名なるものと大塔峰、高野山、生石峰、龍門山、和田嶺等とす大塔峰は東西牟婁の二郡に跨り海面と拔くこと三千八百七十尺は達し縣下第一の高嶺とす河川と紀ノ川と最とは源を大和國吉野郡大臺原巴ヶ嶽は發し本縣に入り伊都、那賀、名草、海部の四郡を貫流して海に朝す其他熊野、古坐、日高、有田等の諸川各郡を貫注し舟楫の便灌漑の利両ながら甚だ大なり島嶼は大小百餘近海に碁布す就中著名なるを大嶋、苫ヶ島等となす氣候は概して温暖にして寒温器は夏季八十度より九十四五度冬季三十二三度より五十四五度の間を昇降す沿海の地は霜雪を見ること稀なり

○沿革

紀伊國もと木國といふ神代の昔素戔嗚尊の子五十猛、大屋津姫、狐津姫の三神此土に降り木種を蒔きしは土質之に適ひ大に繁茂す因て木の國と名けく降て元明天皇の朝に木と改て紀伊の二字となすと云ふ境域は上古以來多少の異動なれに非ざるも大なる變更なし神武天皇の中原を平定し給ふや天道根命戰功を以て木國造と命せられ子孫世々其職と襲く大同元年各道に觀察使を置あるゝは方り從四位之下吉備朝臣泉南海道の觀察使たり天長年中撿非違使

の廳を都に設け各州に看督長と置らる然かをども本州の看督長は何人たりしや之と詳にせず星霜漸く移り五幾七道に妖僧巫覡の徒徘徊玄呪詛に託して愚民を迷ひ財を貪る依て諸州に一の宮と國分寺と置れ復た國司の職を設く從五位下紀伊守行義本國の國司を命せられ宮十二鄉を領し子孫相繼ぐもの十餘代然るに所謂地頭莊司なるもの等各地に割據し互に武威を爭ひ掠奪を事とし一國も一定の主なし平家威を海內に振ふに方り國內の士皆な其麾下に服せしに治承年間源賴朝の起るや田邊別當湛增、新宮十郎（源爲義の子藏人行家）武藏坊辨慶を初とし鈴木三郎重家、龜井六郎重清、紀伊五郎左衞門尉重綱、同次郎左衞門尉爲常、雜賀十郎等馳せて源氏の軍に加はる平氏亡び賴朝鎌倉に開き總追捕使を命せらるゝや佐原十郎左衞門尉義連を紀泉二州の守護職に任ぜ然れども湯橋、和田、湯川、湯淺、小原、玉置、鹿ヶ瀨、芋瀨、中津川、蕪阪、安瀨川、眞砂、野瀨等の諸莊司各その庄內を領して干戈を事とし命令國內に行はれず既にして承元元年六月義連其部下を率ひて高野寺領內に狩倉を設て金剛峰寺より之と鎌倉に訴ふ時遇々後白河法皇の熊野に幸せらるゝあり乃ち院宣を以て大江廣元之を奉行す賴朝また寺社領及び私領を定め與ふ之よりして國內稍平穩なり南北兩朝の分るゝに及んで南朝より臨路中務を守護代に楠正氏正季等と地頭として北朝また畠山左近時將監國清を守護職に任ぜ國清攝路、楠の兩氏等と戰ふこと數次利あらず遂に河內國石川城に退く楠氏の一族滅びて後貞治年

中山名修理大夫義理本國の守護職となり國士を伐て之を平げ武威と四方に張り名草郡大野の城に住す幾ならずして山名義理大内義弘と戰ひ敗北す義弘代て本州に入るとも雖も國士其命に從はず數年を經て泉州より於て死戰す應永十五年足利義持、畠山尾張守滿家を當州の守護職に任す滿家城を有田郡宮原に築き一族を以て城代となし又其孫義就暫く岡城に居れり此時に當て各地の庄司土豪益々蜂起し鬪爭絶るとなく年を經て益々甚し足利氏の末お及んでは名草郡に鈴木孫市、太田右衛門大夫、土橋若太夫、同兵大夫、粟村三郎太夫、鈴木左太夫、鳴木左門太夫、松田源三太夫、田所平左衛門、宮本兵太夫、的場源四郎、佐竹伊賀、木村家永、湯橋治部介等あり海部郡に加茂左近將監、梶原軍太夫あり那賀郡に津田監物、平野彈正、與將監、川野左近等あり伊都郡に隅田一族あり有田郡より白樫左衛門尉、貴志左近右衛門、宮崎八左衛門、神保左京、鳥羽掃部あり日高郡に湯川直春、玉置大膳、窪川五左衛門、等あり牟婁郡に堀内安房守、杉君越後守、山本主膳、安宅佐左衛門、眞砂庄司等あり各土地を占領し互に權威と爭ふ天正五年雜賀の役起るお方り名草海部二郡の士私怨を抛ち力を協せ之信長の兵お當る幸にして和議整ふと雖も忽ちにして再び破綻し同十年鷺ノ森の戰あり遇々信長賊臣の弑するあり京軍退きたるも國中の士尙は其堵に安んせず同十三年根來の亂太田の一揆あり國內騷擾す於是秀吉兵を率ひて本國より入り七郡を席卷して悉く私領私地を沒收し茲に始て國內を統一す舍弟秀長を大和、和泉

及ひ紀伊の太守に封す秀長城を和歌山に築き老臣桑山相摸守重晴を城代とし同十五年より慶長五年まで重晴和歌山城に住し國内の政務を司どる同年十月淺野彈正少弼長政紀伊の太守に封せられ三十七万石を領し其子紀伊守幸長父の封を襲ひ和歌山城に住む長臣淺野左衛門佐と田邊の城主とし同淺野右近太夫を新宮の城主とす幸長卒して子あり弟但馬守長晟之と嗣く元和五年長晟封を安藝に移さる同年徳川賴宣和歌山城主となり紀、勢二州五十五万五千石を領す八月十六日入國し安藤直次を田邊城主とし水野重英と新宮城主となす又天正以前の國士若くは其子孫にして諸國より浮浪するものを扶持し六十人組と稱し之を大番頭山本圖書、松平左京、蔭山土佐、澁谷伊豆、菅沼半兵衛、戸田金左衛門の六人に分ち預く然れとも國用給せさるを以て、寛永二年其俸を削る此時辭去て去るものあり又代り入るものありこの數年を經て悉く其扶持を廢せり賴宣の子孫相嗣で本國の太守さること凡二百五十年茂承侯に至り明治の革命あり同元年閏四月地度制度の變更あり本州と分て紀伊、田邊、新宮の三藩及ひ高野寺領とし二年六月紀伊藩と改て和歌山藩とし高野寺領を堺縣とす三年四月堺縣の管轄を割き五條縣へ編入さる四年七月三藩を廢し三縣を置く同年十一月三縣を合し五條縣の管轄に屬する處を併し和歌山縣とし舊三藩主乃ち徳川、安藤、水野の三家各封土と奉還し東京に移る以來北嶋秀朝、神山郡廉、松本鼎、石井忠亮、千田貞曉、沖守固の諸氏相繼で縣知事たり

○戸數及ひ人口

郡市名	戸數	人口（現住）
和歌山市	一三、二一六	五五、二〇八
名草郡	一五、九六二	八〇、〇六六
海部郡	七、九九四	四〇、二八三
那賀郡	一六、一〇四	八五、〇五六
伊都郡	一二、〇〇五	六一、二六七
有田郡	一三、三五〇	六七、八九七
日高郡	一五、五二二	八七、三三三
西牟婁郡	一六、〇六一	八四、八五四
東牟婁郡	一四、一五三	六九、六六五
合計	一二四、三六七	六三一、六二九

各町村中人口五千以上のもの左の如し

名草郡	黒江	五、七八三	
那賀郡	池田	六、九二〇	
那賀郡	田中	五、〇二三	
有田郡	宮崎	八、六九一	
有田郡	八幡	五、〇四七	
西牟婁郡	田邊	七、一四三	
農商漁業戸數及ひ人員左の如し			

	戸數	人口
農業	七六、一〇七	三七〇、四五八
商業	一五、五四〇	七八、六〇二
漁業	一〇、五一九	六〇、七二九

名草郡	安原	五、〇四一	
那賀郡	粉河	五、三四四	
伊都郡	橋本	五、〇〇〇	
有田郡	湯淺	一〇、二四二	
日高郡	南部	五、五三六	
東牟婁郡	新宮	一一、〇二〇	

○田畑宅地段別

	田	畑	宅地
和歌山市	七町、五反	一二五町、七反	二五四町、六反
名草郡	五、三一七、四	一、五一七、九	四五九、五
海部郡	八四〇、九	一、七三二、二	一八九、二
那賀郡	七、〇六七、一	一、七三九、七	五四四、一
伊都郡	三、六七四、二	一、四三一、九	三三四、七
有田郡	三、〇四七、四	二、〇三七、七	三六八、二
日高郡	三、八三八、三	一、三二四、四	四四七、一
西牟婁郡	二、〇六二、四	一、五七六、八	三七九、六
東牟婁郡	二、六五四、四	一、一八五、四	二七五、二
合計	二八、五〇九、六	一二、六七一、七	三、二五二、三

田ハ地價ト合計千五百二十七万九千九百四十六圓一段平均五十三圓五十九錢、畑ノ地價ハ二百八十六万七千八百九十二圓一段平均二十二圓六十三錢、宅地ノ地價ト二百一万五千二十二圓一段平地六十一圓九十五錢ヨリ當ル

○縣官（明治二十五年八月現在）

知事	從四位勳三等	沖守固	
書記官	内務部長	從六位勳六等	秋山恕卿
警部長		正七位	山中幸義
參事官	内務部第一、第四課長	正七位	日比重明
同	内務部第二、第三課長	從六位陸軍歩兵少佐	中川審六郎
收稅長	直稅署長、間稅署長	正七位	大坪格
典獄	監獄署長		濱田時郎

技師　工學士　山上正夫

○帝國議會議員

貴族院多額納稅議員　吉村角次郎
衆議院議員　第一區選出　法學士　關直彥
同　同　岡崎邦輔
同　第二區選出　正七位　兒玉伸兒
同　第三區選出　堀路彥右衛門
同　同　山本登
前衆議院議員　外務大臣　(奧陸)宗光
同　貴族院勅選議員　松本鼎
同　代言人　和田畳終

○縣會議員

和歌山市　加藤泉
同　北嶋七兵衛
同　山田正信
同　森庄太夫
同　岩橋精一
海部郡　常置委員　幸前權次郎
同　垣內太郎
那賀郡　高瀨竹次郎
同　（副議長）（常置委員）辻野惣兵衛
同　田淵知秋
同　岸田伊八郎
同　望月右內
同　高橋貞
同　常置委員　中村喜代三郎
名草郡　常置委員　神前修三
同　土屋邦太郎
同　松本純三
同　船橋直養
同　堂本諒一郎
同　道本棟太郎
伊都郡　石非秀千代
同　小林德次郎
同　鉛木源五郎

有田郡　山本彌太郎
同　久保瀬七
同　三隅岩吉
同　鴫倉周齋
同　湯川玄碩
西牟婁郡　常置委員　武田圓吉
同　中松小翠
同　小倉九藏
同　田原齋二
同　常置委員　宇非善九郎

○交通

道路ハ西部に於テハ平坦なりと雖ども東北部は山嶽重疊

同　大江城平
同　小林元悅
日高郡　常置委員　山本隆太郎
同　森八助
同　楠本恒助
同　小切間權右衛門
同　議長　並木弘
東牟婁郡　浦神清右衛門
同　佐藤新次郎
同　中村三樹

し車馬の便を缺くものあり國道ハ和歌山市より名草郡を經て和泉國境ヲ達する大阪街道あり其延長三里三十二町とハ縣道は和歌山市より名草、那賀、伊都の三郡ヲ經て大和國境に達する大和街道、同市より名草郡ヲ經て海部郡加太村に至る淡路街道、那賀郡粉河村より名草郡を經て海部郡に達する同街道、和歌山市より名草、海部、有田、日高の諸郡を經て西牟婁郡田邊に至ル大邊地、中邊地の二線路に分れ東牟婁郡新宮に至る熊野街道、名草郡川永村より同郡內海村に至る上熊野街道、和歌山市より名草、那賀、有田の三郡を經て日高郡龍神村に至る龍神街道等ありて其延長百四十里に達す里道ハ凡そ千二百里あり之ヲ四通八達蛛網の如し

本縣の沿海七十餘里ヲ達り港灣の敞甚だ多きを以て海運

の便甚だ便なり又河川には紀ノ川熊野川有田川日高川古
坐川富田川等あり以て舟楫を通ずべし
鐵道は明治廿三年に敷設の計畫をなす者ありて既に實地
の測量を了りたるが不幸にして蹉躓し未だ敷設に至らざ
然るに第三回帝國議會に於て鐵道布設法を議決し和阪間
の鐵道を第一期敷設の線路中に加へられしを以て數年な
らずして長龍煙を吐て紀川沿岸を走るに至らん
電信線は大阪より泉州を經て和歌山市に入り名草、有田、日
高、西牟婁の諸郡を經過し東牟婁郡新宮に達す其間日方、湯
淺、御坊、田邊、周參見、串本、古座、下里、三輪崎の九ヶ所に郵便電
信局あり又數月を出ずして電信局と勝浦に布設し及び
線路を南牟婁郡尾鷲まで延長するの計畫ありと聞く郵便
局を總て八十箇所にあり明治二十三年に於ける發信二百
六十七万六千四百八十七通、着信三百十二万九百六十通とす
又和歌山郵便電信局にては昨年十月より小包郵便物を取
扱ふ

○教育

縣立の學校と雖常師範學校及び雖常中學校とを共に和
歌山市内にあり公立小學校と總て七百八十六、同教員六百
二十八人生徒四万二千七百四十八人あり學齡兒童の十一
万五千三百八十六人内修學者四万七千三百六十八人にし
て學齡兒童百人に對する修學者四十一人〇五に當る
私立學校と大小三十餘あり諸種の學科を授く就中著名な
るものと徳脩學校とす尚ほ後ほ詳なり

○地形變遷

本國古來地形の變遷を考ふるに名草、海部の二郡特に現今和歌山市お屬する地は紀ノ川の海口お沿へると以て變遷の最も著しきものあり卽ち現今磯脇と稱する地と往古の磯浦おして之より東の方に木ノ本、岸の二村あり共に北お葛城山を負ひ南海に瀕し海士郡に屬したり而して岸村の東南海を隔て紀ノ水門あり其東に宇治あり宇治より南に岡の里あり岡の西南廣漠たる地を雜賀野と云ひ雜賀野の南端を和歌浦とす宇治より和歌浦に至る一圓の地は海中の一島地たりと又宇治の東內海と隔て德勒津あり太田、大宅の二邑其南に連り大宅の東南に釜山あり釜山の東南を江南村とし村內に津田浦あり其間の地お恰も甕狀の入海をな

し大宅は其甕口に方り釜の中部お位して甕の中央を括約し一夫より東南一瓦港となし津田浦は船舶の碇泊場たりしあり卽ち神功皇后攀田別皇子(應神天皇)と共に日高郡より海路此地方に來り津田浦より上陸し給ふ事古史に徵すべし又日本記に仲哀天皇二年春三月天皇巡狩南國至紀伊國居德勒津宮將討熊襲國則自德勒津發之浮海而幸穴門とあり以て德勒津の海濱たりしを知るべし蓋し紀ノ川と德勒津とお至り海お朝せしなり其後星霜を經て紀ノ川口南に移り有馬(德勒津の東に位せり)德勒津の諸村河中お沒し其土砂流て河口に堆積し中の嶋を成し爲に河水の流溢を妨げ諸處に洲渚を生ず卜栗柄の前に中洲あり其下お老人嶋あり德勒津の故地復た洲となり上嶋下嶋宮島等となれり斯の

如くにして水路次第に壅塞し大水の時河口復た北に移り川北にありし松島は川南に轉じ前の河流は僅に小川となりて存せり夫より西北宇治、岸二村の間の海水も亦紀ノ川より流出する土砂の爲めに年々に減少し又海面より風浪の激するありて或は洲渚を生し或は遠干瀉を成し遂に北嶋、狐嶋、鵜ノ嶋、前嶋等の島嶼となり北岸の陸地も亦漸く西南に擴ぶ其東西川原、川原崎、綱干、鹽濱、船津等の諸村となる又年を經て古川筋益々乾涸し新在家、吉田、新内等をなす今の宮堰川は即ち古川の痕跡なり而して大川筋は有本村の南に於て分岐し一は中は島を經て南流し岡(現今の岡山)の東に於て廣た瀬となり古の岡の地は大半河中に沒したるが後堤防を築て其流溢を防ぎ現今の廣瀬と稱する邊初

て陸地となれり之より海水も亦漸く退き鹽道、宇須、鹽屋、中嶋、杭ノ瀬、田尻、三葛、小雜賀等の新村を生じ遂に和歌川となり和歌浦に至り海に注けり他の一方は宇治の北に沿て西流し北島、鵜ノ嶋、和田等を經て海に入りしが其後北嶋鵜ノ嶋等は大陸に連續し船所、粟、中、市小路、福嶋、北嶋、野崎、狐島、延時、次郎丸、梶取、向、北土入、榎原、西土入、東松江、中松江、西松江、小屋、西庄、本脇等總て二十二箇村となる其鵜ノ嶋より松江の東北にありし入江は堤防を築きて細流となす即ち今の土入川之なり當時紀ノ川は松江より磯脇に至り海に朝したるが河口に洲渚を生じ次第に延長して二里ヶ濱となり年を追て益東南に延長し河流を壅塞したるより紀ノ川の方向漸く轉じて大浦に至り海に注げり然るに其以後洪水の

際更に現今の位置を轉せり今の水軒川を古川と稱するもの
のあるは卽ち此に因す
以上は是れ紀ノ川海口近傍地形の變遷とす其他の地方に
於ける變動も詳細に之を知る能はざるも沿海の地特に河
口ゐ接近する地は其變遷最も著く地震、海嘯、洪水等天災あ
る毎ふ地盤の崩壞、土砂の堆積等あ之又土地の漸く開くる
に從ひ堤防の築造等人工に依之河水、海潮の流域を變ト
るもの少なからざ一たび地圖を披て地勢を察一又其地名
に因て考ふるときと古來の變遷と想像するに足るものあ
り況んや親しく實地を視察するに於てをや現に明治二十
二年の水災の如き沿海諸村ゐ於て多少地形の變化と來し
たるも常に世人の目擊する處たり又遠くも元化元年の大

地震、寶曆六年の大水災、安政元年の大地震等ゐ於けるも亦
地形の變動ありしと或と舊記ま存し或と口碑に傳はれり
因に云ふ明治二十二年八月の水災と寶曆六年以來の大
洪水にして其害の及ぶ處廣く全縣下ま涉之一市二町二
百村と浸害し死傷する者千五百五十九人家屋の流亡三
千四百十四戶同倒潰千三百二十五戶堤防の決潰十二万
六千八百七十三間山嶽の崩潰三万千四百二十九ヶ所に
及べり然るに翌九月水災再び至り其被害ま之前者ま讓
ふす唯死傷者の少なうぢしのみ

和歌山市

○概説

和歌山市と縣の西北部にありて名草、海部二郡に挾まる東西凡二十町南北凡二十八町市坊四百縣下人口最も稠密ある地とす紀ノ川其北西を流れ瀧屑川其東部を貫流し其間お堀川あり以て彼此相通ず市の中央に虎臥山ありその南お岡山あり逶迤南走れ岡山は東よ岩石突兀たる高丘虎伏山と相對するものとを天妃山とあす此地上古は海濱にして吹出の里と唱へしが次第お西耐よ陸地を生じ岡の里、宇治、雄水門、吹上小野等の地となり漸く年を經て岡、釘貫、宇治、驚の森、雄、湊の諸村あり名草、海部二郡よ分屬し釘貫村と今の虎伏山の麓にありしが天正十三年城を山上に築くお方

り里人を宇治の近傍ゟ移し釘貫の舊地と廓内とし之より東北ゟ市街を開き若山と呼び一小都會を成せり降て慶長年間淺野幸長若山城に入り市井を劃し宇治村に士邸と建築す之よりして民家漸く增加し名草、海部二郡に跨れる一大市街となり次で元和五年德川家入國後戸口益々增殖し宇治、吹上、湊の南部等は士邸門を並べ其他は商家櫛比し南海の一都會となり商工の業是に至て殷盛を極めたり明治四年德川氏封土と奉還し東京に移つて以來幾千の藩士多くは舊邸を毀ち市井は間に雜居し吹上、宇治等は戸口漸く減し大厦高屋變ゝて田園となり市内の形勢茲に一變したまと雖ども今尚は一万三千二百有餘戸ありて全國四十市中の上位と占む維新の後大小區を劃するに方り第一大區第一、二、三小區及び第二大區第一、二小區ゟ分劃し明治十二年郡區編制の際上記五小區を名草、海部二郡より割き和歌山區と置き明治二十二年市制實施ゟ方り更に若干の地を併し和歌山市とせり

市内と分て番町、内町、廣瀬、湊、吹上、新町、宇治の七部落とし又市治上公立尋常小學校の數に應じ九區に分つ本町一丁目外十五町と第一區とし駿河町外十九町と第二區とし北町外六十八町と第三區とし東紺屋町外三十六町を第四區とし新中通一丁目外四十五町と第五區とし北新一丁目外四十一町を第六區とし傳法橋南ノ町外三十二町と第七區とし雜賀屋町外三十九町を第八區とし湊通町南一丁目外八十一町を第九區とす各區に一の尋常小學校あり高等小學

校其他の私立小學校は番外にあり又私立學校と大小二十餘ル各區に散在せ學齡兒童八千六百九十三人內修學者五千百四十五人にして學齡兒童百に對する修學者五十九人一九は當る

醫師と凡そ九十人あり內專門醫三十餘人とす產婆と二十餘名にして半は本免狀を有す藥舖殆んど二十戸あり藥種商五十餘名賣藥製造者七十名內外とす

產物と綿フランネルを最とし一ヶ年の產額七八十万圓ゟ達し海內と大坂、名古屋、東京、北海道、海外は淸國、浦鹽（うらじおすとつく）斯土德等へ輸出す該品ハ今を距ると殆んど二十年前宮本政右衛門氏の發明に係れり（一に曰ふ瀨戸十助氏之と發明せと）其他の產物と雲齊、紋羽、足袋、靴、革皮、鬢附油、傘、奈良漬、酢漬魚類、砂糖漬果實、戸、障子等とす

○番町組

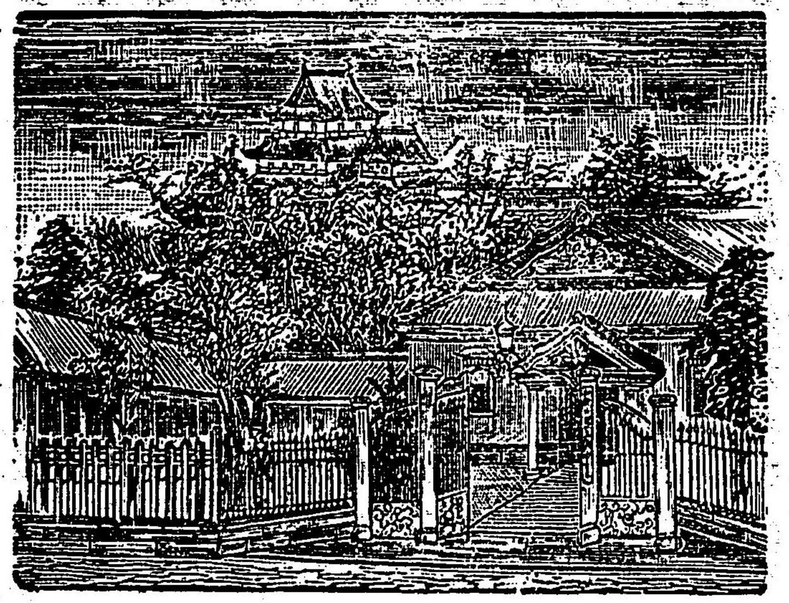
番町又丸の內と稱し一番町より十三番町あり明治初年迄は士邸相聯りしが今や多くと頽廢せり

○舊蹟

（和歌山城）又竹垣城と號せ虎伏山ゟあり豐臣秀吉本州に討入り國士を平げ弟秀長を和、泉、紀の三國に封じ命じて城を茲に築かしむ秀長乃ち老臣桑山重晴（後ち果報院と號す）をして工事を監せしむ天正十三年三月二十八日工を起し年を越て成る重晴城代と命せられ同十五年より慶長五年迄十四年茲に住ひ其年十月淺野幸長紀伊に封せられ此城に住し大に修補と加ふ幸長卒して弟長晟之ゟ代る元和五

年に至り安藝廣嶋に轉す同年八月十六日德川頼宣入城ゑ更に修築する處あり然るに明曆元年藩士都築某の邸火を失し延燒して二の丸に移る間もなく再築の工を竣ふ降て弘化二年雷火あり天守閣を燬く是亦幾くもくもなく再營す今存する處の天守閣是ゑ現今陸軍省に屬し番人を置て大手門内に住せしむ城濠には數年前より

和歌山縣尋常中學校より和歌山城を望む圖



蓮を栽培し初秋の候に至るゝ紅白姸を競ひ市内の一美觀たり

（内廓諸門の趾）京橋、中橋、湊橋、東中橋及ひ今れ岡山町より二番町に至る處の城濠の上（ほど）りに城門あり出入のものを取調らべさり

（堤防跡）内廓の外圍即ち各堀川の沿岸ゑと總て土堤を築き堤上に松を植へたり即ち今の十一番町十二番町十三番町等川岸に沿へる處ハ總て土堤の跡なり

（舊藩士れ邸）京橋を渡りて廓内に入るゝば右に安藤飛彈守（田邊城主三万八千石）の邸あり其廣さ中橋以西に達す左に水野太欣頭（新宮城主三万五千石）の邸あり今の十一番町は其屋敷趾なり又水野邸の南に三浦長門守（一万五千石）の邸

あり佐野田羽守(三千石)の邸ありしが今の裁判所の南隣にあり二佐野氏今尚ほ住す其東お加納平次右衛門(四千石)邸あり今の八番町に下條伊兵衛(三千石)邸あり其他逐一之を枚擧するに暇あらず

○神社並教會

(多賀教會所)十番町にあり近頃宏壯なる社殿及び廳舍と新築せる所長小山時雄氏

(耶蘇正教會堂)同町よあり傳導師田中正之助氏

○官衙

(和歌山地方裁判所)二番町おあり數年前新築しさる二層の高樓なり支部を田邊よ設く本廳の直轄する處和歌山、名草、海部、那賀、伊都、有田の一市五郡とす

所長　吉永成德

檢事正　岡田豐

(和歌山區裁判所)三番町おあり地方裁判所と相背後一彼此相通行そるを得へし和歌山、名草、海部、那賀、伊都、有田の一市三郡及ひ那賀郡の内二十六ヶ村を管轄す

(和歌山縣警察部)七番町よあり曾て和歌山醫學校として建築したる洋風二層の高廈あり構内に巡査教習所あり

(和歌山大隊區司令部)十三番町よあり民家を仮用を歩兵大尉西嶋守信氏司令官心得たり

(和歌山郵便電信局)十一番町よあり洋風二層樓とす客年十月より小包郵便物を取扱ふ局長前田俊雄氏

(和歌山警察署)十二番町署長中野重任氏

(縣會仮議事堂)一番町元本縣植物試驗場内にありて曾て

集產場に使用したる屋舍を仮用す

○教育

(縣立和歌山縣尋常中學校)和歌山城内にあり本縣病院と相對す本校はもと岡山にあり尋常師範學校と相隣したるが明治二十二年三月茲に移せり校舍は舊藩主德川侯爵より本縣學資金の内へ寄附せられたる金額の内を以て新築し教室、講堂、事務室、寄宿舍、倉庫等凡て十九棟總建坪八百八十三坪五合とす校長松山亮氏

(市立和歌山男子高等小學校)七番町校長間宮陳忠氏

(和歌山女子高等小學校)九番町

(和歌山高等女學校)九番町女子高等小學校内

(和歌山女子裁縫學校)七番町男子高等小學校の東隣

(幼稚園)九番町女子高等小學校内

(私立德脩學校)九番町にあり明治十七年德川茂承侯舊藩士に命じ設立せしむ漢學英學數學其他普通學を授く校長栗原一郎右衛門氏

(法學舍)七番町にあり代言人森懋氏之を開設す法律學を授く

(獨英語學校)八番町にあり薗田俊三郎氏之を開設す獨英二國の語學を敎ゆ

○新聞紙

(和歌山日々新聞)七番町奎文社より發行す十數年來引續き發行し當時は紙面改良の爲め休刊中なり

(和歌山新報)十一番丁同新報社より發行

○衛　生

（縣立和歌山縣病院）七番町にあり明治十九年迄和歌山醫學校附屬病院なりしが同年醫學校を廢し單獨の病院となす診察所手術室藥劑室患者扣所等之れと洋風二層樓なり玆が明治十六年十二月火災に罹りし後基礎を擴張し之を改築せり總建坪四百三十六坪餘院長醫學士澤邊保雄氏

齒科醫　十番町三木橋詰　中村好正

○代言人

七番町　森　樞三

○銀行會社

（第四十三國立銀行）十一番町にあり明治十一年十一月創立資本金二十萬圓一株二百圓田邊、新宮二箇所に支店を設く頭取宮本吉右衛門氏

（明治生命保險會社代理店）第四十三國立銀行○本店東京日本橋區坂本町明治十四年七月開業資本金十万圓

○雜　錄

（德義社）九番町にあり舊藩主德川侯爵より藩士に下附せられたる授產金保管の爲め設置したるものにして舊和歌山藩士族の一大團体なり社長栗原一郎右衛門氏其他役員數名議員若干名あり

（木國醫會）當市及ひ接近郡村醫師の團体にして毎月一回例會を七番町男子高等小學校（同校差支ある時は別に會場を撰ぶ）内に於て例會を開く會長醫學士澤邊保雄氏

（和歌山縣藥劑師會）毎月一回例會と本縣病院内に開く會

頭河島敬太郎副會頭栁野平七氏
（攻玉會）小學教員の組織する所にて例會を男子高等小學校内に開く
（和歌山婦人會）毎月一回例會を九番町女子高等小學校内に開く
（綿フランネル織營業組合事務所）八番町に設置し當市及び海草郡内の企業に關する事務及管理する處なり取締北島七兵衛氏
（花街）十一番町舊水野家屋敷跡ゐあり藝妓三十餘名青樓廿餘戸軒を連ぬ就中風月庵は構造幽雅よくて紳士の宴遊するもの多し
（人力車組合事務所）市内人力車夫の取締をなす取締人川崎作兵衛氏

○商工業及び雜業者

活版印刷所　七番町　奎文社
同印刷所　十一番町　耕文社
石版彫刻印刷處○株券免狀諸ソッテル名刺肖像銅版彫刻　十三番町　松田正文堂
陸軍御用製靴所○綿ナル製造所　元丸ノ内八番町　和歌山丸紀組（諏訪部千代三郎）丸紀組支店
靴製造販賣所　十二番町
專賣特許山田防水靴　八番町　和歌山靴工所
專賣特許海上救危器製造所
諸新聞雜誌販賣　丸ノ内　普及舍
肥料販賣兼砂糖問屋　十二番丁　㕝池田伊三郎
綿ネル製造販賣所　十二番丁　青山織工所
色染業　十二番町　㊟由良儀兵衛

生藍及色染業　十二番町　林半十郎
寫眞業　十番丁三木橋西詰　林林香堂
諸盆栽樹木商　十番町角京橋通　西澤仁兵衛
諸器械製造所　十三番丁　松山平兵衛
料理亭　十一番町住吉橋南詰　於福亭
和洋料理店　十三番丁　集雅亭
鳥肉牛肉幷ニ料理店　十一番丁　鳥楠事　黑田楠松
函館產天然氷　京橋南詰　天性氷室　山本武右衛門
右四季トモ無間斷發賣ス
襖屛風仕入所幷書畫　拾三番町　表具師萩廼舍事　海野鹿太郎
蠶種並ニ桑苗販賣所　五番町　山東儀兵衛
諸職工受負並ニ神葬佛葬取扱　十番町　慶集社　平野壽晴
葬具調達諸人夫差立所
諸職工受負神葬佛葬取扱　十三番町　共就社　岩橋周二
葬具調達諸人夫差立所

各地人力車差立瀛船荷客取扱　自由軒

各地人力車賃錢表　但一人乘通常發車

大阪街道　山中二十四錢○信達三拾二錢○蛸茶屋四拾二錢○貝塚四拾六錢○岸和田五拾錢○堺吾妻橋停車場六拾二錢○大阪難波新地六拾八錢
近鄕　和歌七錢○紀三井寺七錢○黑江拾一錢○日方拾二錢○山東拾三錢○山口拾三錢○八軒家七錢○加太拾四錢○根來二拾二錢
高野大和街道　岩手拾六錢○粉河二拾九錢○名手三拾錢○大谷四拾錢○妙寺四拾三錢○名倉四拾九錢○橋本五拾四錢○學文路五拾二錢○九度山五拾錢○慈尊院四拾七錢○五條七拾二錢
熊野街道　藤代十三錢○鹽津廿一錢○箕嶋三拾錢○宮原四十錢○湯淺五十錢○金屋五十八錢
通常發車ハ午前四時より同九時迄同十時より一時間毎ゐ十錢增

○內町組及ひ宇治組

內町は番町の北にあまた宇治ハ內町以北紀の川に達する間を云ふ此兩部往時ハ宇治、鷺の森二村に分ちしが慶長年中二村の地と割て內町となし又た宇治を士邸となし其他市の西北部を宇治村鷺の森村と稱し近年まで名草郡に屬せ

しが市制實施の際總て當市に編入せり之に屬する町名左の如し

内町組　本町一丁目より四丁目迄○米屋町○匠町○中ノ店中ノ丁○中ノ店南ノ丁○中ノ店北ノ丁○元寺町一丁目より三丁目迄○雜賀町○住吉町○北桶屋町○南桶屋町（以上第一區）○駿河町○福町卜半町○寄合町○西ノ店○橋丁○板屋町○東鍛冶屋町○西鍛冶屋町○舟大工町○北大工町○南大工町○西大工町○萬町○六軒丁（以上第二區）

宇治組　北町○新魚町○源藏馬場一、二丁目○北釘貫町○疊屋町○元寺町四、五丁目○西旅籠町○東旅籠町○元寺町東ノ丁○元寺町西ノ丁○元寺町南ノ丁○元寺町北ノ丁○鍋屋町○本町五丁目より九丁目迄○東釘貫町一丁目より三丁目迄○西釘貫町一丁目より三丁目迄○山吹丁○袋町○東布經町一丁目より六丁目迄○西布經町一丁目より六丁目迄○杉ノ馬場一丁目より五丁目迄○一筋目より六筋目迄○德田木町○石橋丁○屏風丁○東藏前丁○西藏前丁○九家ノ丁○鷺ノ森○鷺ノ森堂前丁○鷺ノ森南ノ丁○鷺ノ森中ノ丁○鷺ノ森西ノ丁○鷺ノ森東ノ丁○鷺ノ森片町○鷺ノ森明神丁○鷺ノ森新道○曲尺丁○專光寺門前丁○元博勞町（以上第三區）

○舊蹟

（本町門の趾）本町九丁目の北端にあり門外は廣濶にして廣小路と呼び旅舍多うりしが今や大に趣を異にせり

（廐趾）元寺町北詰は藩主の廐にて其前の河岸にも堤防あり小松を植付けたりしが今は廐も堤防も其跡を留めす

（皿屋敷）元寺町廐跡の北に接し皿屋敷の跡なりといふもはあまり今は畑となれり口碑に傳へ云ふ世に播州皿屋敷と稱して演劇に仕組たるは其實當州の出來事にして皿屋敷

とと曾て此處に住したる的場某の宅にて青山鐵山といへると其家扶、お菊といへると其下婢にて屋敷跡も久しく草叢となりたるに一種の昆虫と生したるを俗にお菊虫と呼ひしと記志て以て好事家の思料ふ供そ

（水野丹後守邸）幕政の比は今の雜賀町一圓水野丹後守（八千石）の邸にして今の九橋樓は同邸の望遠臺なりしと水野氏今尚は同地ふ住す又此處と雜賀町と名けたは天正の比名を知られたる雜賀孫市（鈴木氏）の住したるとあるふ因れり

（納屋河岸）又納屋の濱と云ふ雜賀町濱より西の方寄合町濱ふ至る河岸にて往時は倉庫相並ひしを以て名く

（鷺の森）上古此地に栁の大樹あり周圍三百尋に及ひ枝葉四方ふ繁りて森を爲せしふお鷺の來り栖ふもの多かりしを以

て名くと此地より宇治の西部と古へ神社寺院相連りしが天正の兵火に多くは烏有に歸し又他に移轉したりと

○神社佛閣並教會

（鷺の森本願寺別院）北町の西端にあり其門前を鷺の森前町と云ふ境域東西百六間南百三十二間壹万三千九百九十二坪本堂と東に向ひ對面所主殿其左にあり共に輪奐の美を極む其他茶所、鐘樓、鼓樓、集會所、他屋等あり堂宇の大なる市内に冠たり當寺は文明八年僧蓮如熊野三山參詣の途次名草郡冷水（內海村）に於て喜六太夫（後髮を剃て了賢と號す）といへるに會し他力本願の旨を細に說き聽せしに喜六太夫大に喜び己が屋舍を寄せて道場とせり且つ所有の山林を寄附して香花の料に充て信徒之より大に增加しより

其後三十二年を經て永正四年僧實如之と黒江に移り天文十九年僧證如再び之と和歌弥勒寺山に移し永祿六年四月僧顯如更に之を鷺の森に轉す即ち今の地なり慶長年間淺野幸長境内六十四石の地永代免許の狀と下附し又市街の町割となすに方り本町より當寺表門より至る間の道幅を廣くし以て參詣者に便せり其免許寫と左に掲く

鷺森寺内屋舗之地子六十四石之所令免許候也仍如件

慶長六年十二月六日　　左京太夫　幸長判

鷺森御坊中

鷺の森の戰

天正五年三月雜賀の役に信長の兵敗北し遂ふ和議と講し問もなく僧顯如當寺に退隱したるに信長疑ふて顯如潜ふ雜賀の兵力と養ふとし同十年急に石山を攻め又神戸信孝ふ五千餘騎と附し鷺の森を擊たしむ時に五月十一日信孝の兵既ふ泉州堺より至り一擧にして當寺を攻めんとす寺内の僧徒之を聞て大に驚き檄を近鄉に飛して末寺の僧侶及び信徒を召集し防守の準備をなす越て六月二日未明信孝の先鋒丹羽長秀三千の兵と二手ふ分ち前後より來り襲ふ鈴木孫市、同孫六、嶋本左門太夫、宮本平太夫、乾源内太夫、關掃部太夫、今井權七、穗手五郎左衛門、松田源三太夫、藤非太郎右衛門、渡邊藤左衛門、上口刑部、三非遊松軒、和歌玄意、島與四郎、的場源四郎等各手勢若干と率ひ跳て重圍の裡に入り奮鬪力戰大ふ敵軍と亂す此時下間賴龍鐘樓ふ登り頻りふ鐘と撞く近傍の門徒其變わるを知り續々來集し

敵の背後を撃つ両軍戰ふと終日黄昏に至り長秀軍を退く然れども泉州に屯ける後軍漸く來着し其勢再び熾んなり鷺の森の門徒之を見て嘆じて曰く終日の戰に我兵大に疲る而して敵兵益加はれり縱ひ金城鉄壁に據り死守するも衆寡固より敵せず況んや城壘の據るべきものなきに於てとや如かぜ佛陀の靈前に於て潔く自死せんにこと法主顯如も亦其免るべからざると知り衆と共に別盃を傾け死を決す斯くて翌三日鷄鳴長秀の兵四面を圍み鯨波天地を震動す法主涙を拭ふて曰く嗚呼我宗祖は遺法天下に行こるゝこと三百年五畿八道流布せざる處なし余澆季の世に生れ不德にして魔鬼に魅せられ此大法を滅せんとす時なる哉命なる哉と將に自ら刃に伏んとし眞宗は存滅間髮を容れざるの時しもあれ一個の勇士駿馬に鞭ち圍を破りて寺門に近つくあり衆見て之を怪む勇士馬より下り大聲呼んで曰く法敵織田信長同嫡子信忠昨二日京都本能寺に於て明智光秀の爲に弑せられたり法主請ふ心を安んぜよ我は是れ曾そ攝州玉川の役に擒にせられたる龜井六郎なりと衆之を聞て俄に愁眉を開き手の舞ひ足の踏む處を知らず將に滅せんとしたる法燈是に於て再び明なり暫くにして信秀も亦本能寺の變を知り急に京師に歸る因に云ふ和歌東照宮祭禮は行列中に鷺の森跛踊と稱するものあるは此時兵士喜悦の餘り舞踊せし樣を摸せしなり

（朝掠神社）　鷺の森堂前町の北にあり大巳貴命（おほあなむちのみこと）を祀る或は云ふ當社はもと岸村行宮にあましが中古此地に移すと或

は云ふもと廓内(今の十三番町邊)にありしが後今の地に移すと依て其地は今尚は當社の氏子なりと或と云ふ古來此地に鎭坐すと諸說紛々一定し難し祖公外記に曰ふ鷺の森社を九頭社と申傳候處後顯國社と改む慶長六年淺野幸長より御坊へ六十四石境内免許の印を賜候節は顯國社も其内に入有之候其時と小社一座計にて禰宜も無之處其後氏子繁昌(中畧)李梅溪按に延喜式神名帳名草郡之内に朝掠社と有之所在未詳候附此社の號に改唱候云々とあり尚ほ識者の考定を待つ

(博勞町地藏)　元博勞町滿光寺境内ゟ石地藏あり靈驗顯著なりとて日々參詣の客絶へず毎月二十四日ハ特に賑へり

(住吉神社)　住吉町ゟあり往時と三木町堀誥にありしが元和年間今の地に移せり本町以東内町組の氏神とす

(象頭山松尾寺出張所)　雜賀町ゟあり讃州琊珂郡象頭山松尾寺金毘羅大權現(琴平神社と異なり)の出張所にして不日神祠を造營する筈なりと所長石塚正春氏

(天主公教會)　米屋町にあり宣教師佛人シユケ氏傳導師森昌一氏

遍照山覺樹院高野寺)　本町七丁目横にあり古義眞言宗にて弘法大師を本尊とす當寺は元來高野山行人派の懸所ゟして慶長の比淺野幸長此地と高野山興山寺の僧勢譽に賜ひ當寺を創建せしむ

(三部神社)　新魚町にあり佛部、蓮花部、金剛部ハ三神と祀る此近邊の氏神なり

○教育

生徒の數は二十四年十二月調

（公立内町西尋常小學校）橋町にあり昨年新築の工を竣へ講堂教室等完備せり生徒五百五人あり校長細井三郎氏

（内町東尋常小學校）もと本町三丁目にありしが過般南桶屋町に於て校舍新築落成し本校より分離せり校長柏原實盈氏

（始成尋常小學校）本町五丁目にあり生徒二百四十人校長丹羽勝次郎氏

（幻稚園）同校内にあり

（私立簿記專門學校）鷺の森南の丁にあり明治廿三年貴志尚橘氏之を設立す

○衛生

内外科醫　中ノ店中ノ町　彦阪小七郎
同　雑賀町　和歌山醫院　田村寛逸
同　北町　博愛醫院　五斗信吉
同　米屋町　阪本秀造
同　福町　木梨精太郎
藥劑師　卜半町　天田長次郎
仝　福町　小林廣三郎
仝　寄合町　阪上傳吉
仝　仝町　阪上傳太郎
仝　北町　島喜兵衛

○公證人

米屋町　薗部三郎

○代言人

福町　杉原佐一郎

本町五丁目　楠本萬楠

○橋梁

（京橋）本町一丁目より十一番町へ架す長二十間三尺幅四間其北詰に本縣里程元標あり

元標より各所への里程　○東京百六十里二十四町○大阪十七里四町○兵庫二十七里○奈良二十八里三十三町○三重四十五里二十一町○徳嶋二十一里二十五町○秋月三十一町○岩出三里三十二町○橋本十一里二十八町○高野山十二里五町○湯淺十里十町○御坊十七里三十町○田邊二十六里二十九町○新宮五十五里四町○本宮四十五里十九町○那智五十三里三十四町

（中橋）福町及び下半町濱出合より十二番町へ架す此橋より鷺の森へ至る道路を中橋筋といふ

（寄合橋）寄合町より湊本町一丁目へ架す

（住吉橋）京橋の東にありて中ノ店南ノ町より十一番町に架す

（堀詰橋）又表橋と云ふ雜賀町より三木町堀詰に架す

（裏　橋）元寺町一丁目より新町に架す

（甫齋橋）又駒屋橋と云ふ元寺町一、二丁目の間より北新町に架す

（教仙橋）元寺町四丁目より北新町に架す

○劇　場

（紀國座）元寺町一丁目東側にあり

（七福座）鷺の森南の町へあり

○銀行會社

（日本銀行出張所）本町二丁目にあり明治二十四年四月一日より開設す和歌山縣本金庫を預る所長阿久澤義處氏

（三非銀行出張店）同所にあり

（和歌山米穀賣買株式會社）寄合町濱にあり本年四月創立資本金一万圓一株金二十五圓社長津村重兵衛氏支配人南楠太郎氏

（內國通運會社出張店）本町一丁目物貨運送及ひ人力車並業各地人力車賃錢と自由軒も同じ

○雜　錄

（私立木國貧民救育場）元寺町四丁目にあり明治二十四年十二月十五日石本義一氏之を開設す貧困にして倘る處なき細民と救育し之れ一定け職業を授け自活の道を得せしめ又之を監視の刑に處せらるゝを定れる住所なき者と入場せしめ之と善に導き職業を敎もる等を目的とし一場內に男女の工場と設け諸般の職業も從はしめ其得る處の賃銀の幾分を救育費の內に收め餘と蓄積して退場の際之を本人も交附す世の慈善家此擧と賛助し金員物品を寄せて救育費を補ふもの多し

（魚市場）東鍛冶屋町より南大工町も至る間を官許魚市場とす雜賀崎の鯛和歌の牡蠣より出嶋、加太等の種々の魚類市場に澂測より魚市場はもと西の店にありしが近年茲に移したり

（蔬菜市場）西の店より萬町に至る近郷より送り來る蔬菜

山をなす

（新築地）雑賀町の東にあり數年前市内の堀川と浚渫し其土砂と以て之を築く常よ諸般の興行ありて夏の夜と特に賑ふなり

（本町の夜店）夏の夜は本町一丁目邊よ露店と出すもの多く素見の客群となす

（和歌山婦人教會）眞宗信徒の組織に係り本願寺別院内よ於て例會を開く

（木國印刷業振興倶樂部）昨年の春市内印刷職工の主唱よて之を組織し元寺町二丁目よ事務所を設く

（駿河屋）駿河町にあり岡本を氏とす其先は山城伏見より出づ古來より菓子と製そ慶長元和の比官命ゐ依り駿河よ

轉じ又和歌山よ出店し天明四年よ伏見の店に扶持を賜ふて本店とす屋號はもと鶴屋と稱せしが憚る處ありて駿河屋と改む其後京大坂奈良堺名古屋よ支店を置き各菓子と製し高貴の需に應ず殊に當店の如きと其賣高頗る多し

（時鐘）本町五丁目にあり市費と以て之を設け日々時間を報ず

（養勇社）雑賀町よあり撃劍の道場とす社長永井定楠氏副社長安藤英楠氏幹事伊藤盛楯氏共に劍客を以て知らる

○商工業並雑業者

綿テール○縮ミ布　製造販賣　中ノ店南ノ丁　島　熊二郎

綿子ール、綿セール地商　本町貳丁目　分池田萬助

綿フランネル製造販賣　駿河町　㊀岡崎源兵衛
本改良品種々綿ネル製造　匠町　井坂井組
綿ネル商　本町三丁目　大津田大三郎
綿ネール製布　元博勞町　和浦野繁太郎
綿ネール製造御商　寄合町　X小池榮助
綿ネール製造所　同町　羽福島定吉
綿ネール製造所　宇治袋町　刀方正織工所
綿ネル蚊帳製造所　本町五丁目　田田中勝太郎支店
綿ネル卸商　中ノ店南ノ丁　※和田熊太郎
綿ネル製造販賣舖　六軒丁　傘宮本平吉
綿ネル製造所　東鍛冶屋町　中谷忠八
綿ネル製造所　寄合町　島村善七

綿ネル製造肥物商　元博勞町　浦野吉次郎
砂糖商　米屋町　今津守惣兵衛
洋和砂糖商　西カジヤ町　南中谷忠八
砂糖商　住吉橋北詰　モ岡本榮助
砂糖商　福町　㊥中村保次郎
造酒商　西ノ店　和浦野吉五郎
和洋酒醸造處紫蘇酒發賣元　御堂筋北町　中屋号角田太二郎
溜酒幷ニ紫蘇酒奈良漬製造所　寄合町　坂田屋号宇治田六左衛門
米穀問屋　寄合町濱　坂本田市兵衛
米穀問屋　寄合町　㊥山本德藏支店
米穀問屋幷ニ廻船業　橋丁、　仝石井榮吉
米穀問屋　寄合町濱角　井松伊田張店

時計商　福町七番地　數見吉之助
肥料綿商　福町　垣内善八
肥料砂糖問屋　雜賀町　長谷六兵衛
肥物商　米屋町　和田藤藏
肥料綿商　元博勞町　下村勢一
呉服太物商　ぶらくり丁　道津喜兵衛
呉服太物商　本町二丁目中程　大野屋 奥田長治郎
呉服商　本町一丁目　松尾善助
洋反物呉服商　本町二丁目　坂上平兵衛
舶來フランネル、毛布、肩掛、膝掛、堺緞通其他敷物各種　ブラクリ丁　菊地支店
質商　卜半町　掛下彦十郎
質商洋服賣買店　西旅籠町　垂井清右衛門

洋服裁縫店　駿河町　蘭田富之助
西洋小間物、洋酒、名酒、洋服裁縫、大阪保里川鐵工場製造保撿金庫縣下一手販賣　本町三丁目　菊地本店
西洋物品商　ぶらくり丁　箕田商店
糸物商組物類色々度量衡販賣所　本町五丁目　瀧野新助
各紡績會社製糸洋糸絹糸商　本町三丁目　瀧野米吉
苧網商　駿河町　市川文太郎
麻苧網糸商　匠町　鳴神屋 實田次兵衛
造醬油、造酢、奈良漬、金山寺味噌、酒盜、　本町五丁目　宮崎傳兵衛
酢釀造商　萬町通南大工町　直川屋事 奥村孝吉
酢商　福町　玉置次右衛門
書籍商幷ニ諸新聞雜誌販賣所　本町一丁目　津田源兵衛
書籍商幷ニ學校用樂器販賣所　本町二丁目　平井文助

和漢洋書籍商　駿河町　英文堂　松本國助

和漢歐米書籍商幷ニ古本販賣　元寺町一丁目　帶伊事　高市伊兵衛

菓子商　駿河町　岡本善右衛門

金襴錦織物類表具裂類○戸帳打敷類○ウルユス○小兒龍子丸○去熱丸○瀉病丸大取次所　福町　小池五兵衛

繪具染艸商　米屋町　和田庄藏

染料、懷爐灰、大工道具、販賣所　本町四丁目　美山彌兵衛

染物商　匠町　宮本幸平

筆墨文具類販賣所　本町二丁目ぶらくり丁玉通堂　濱田和助

筆墨文具販賣所　卜半町　湯川文榮堂

登錄商標　髮油梅花蠟燭製造卸商　寄合町　坂上傳吉支店

褒狀　第二回內國勸業博覽會

諸油商　雜賀町　山植金兵衛

種油製造販賣　橋町　宇治田十助

髮油幷蠟燭製造販賣所板屋町　中橋筋　井關榮次郎

諸紙卸小賣　寄合町　土井甚助

諸紙活版印刷所、西洋小間物商　福町　池永善兵衛

萬黑目漆販賣、金銀諸箔類、染艸、各種、活版インキ、幷ニペンキ、　福町　宮崎長之助

洋和鐵金物大工道具類　卜半町　伊東小次郎

鐵物商　東カシヤ町　小野木榮藏

諸金物幷ニ金銀賣買、古帳、反古賣買　雜賀町　四宮多助

諸刃物所　中橋筋　永田庄兵衛

鍋釜金物炭薪商貸船貸荷車　寄合町　橋爪喜右衛門

傘提灯合羽製造販賣所　福町　和田久右衛門

諸傘幷ニ提灯合羽製造販賣所　本町三丁目　嶋　嶋九市郎
各國物貨遞送所　寄合町　本　本多楠之助
極上河内及半唐足袋製造所　駿河町　岡（龜岡事）光之助
褒狀　第三回勸業博覽會　紋派織商　本町二丁目　玉置清兵衛
幷ニ上等製造足袋販賣所
寫眞師　元寺町一丁目　淺井寫眞舖
寫眞師　東鍛冶屋町　崎山市松
三井物產會社特約　石油各種專賣所　駿河町　里井支店
諸レッテル製造所　駿河町　生進堂
蒸芋商　鷺森堂前丁　玉田龜太郎
骨董舖　本町壹丁目　爲春堂　岡十造
琴三味線商幷ニ小道具　糸皷太皷品々　雜賀町裏橋筋　刃　檀上力松

料理店　雜賀町九橋樓　戸塚清次郎
料理店　本町一丁目　とん鐘　鈴木岩吉
旅人宿業　本町三丁目　宮士屋事　正木貞次郎
旅人宿業　本町四丁目　岡長事　前田靜七
旅人宿業　本町壹丁目　長　小早川伊助
旅人宿業　雜賀町表橋北詰　中村屋事　角田藤助
烟艸商　東かじや町　介　林喜助
蒲鉾商　東かじや町　岩ヶ根　榎本繁右衛門
大熱病急活丸製劑本舖　卜半町　天田嘉助
各國改良賣藥代理舖○和漢洋藥品醫用器械販賣所　藥劑師　寄合橋東詰　正　阪上傳太郎
○和洋砂糖化粧品類　矩正堂
內外各國藥品處方箋調劑處○醫療器械類染工料幷ニ附屬藥品○有効保証賣藥　北町藥劑師　嶋喜兵衛

紀州名産霜草刻卷煙草卸商	本町二丁目萬町入口	森岡德太郎
藥種商及賣藥	福町　藥劑師	小林廣三郎
各國有効賣藥大販賣所	中ノ店中ノ丁角　藥舖	岩橋活命堂
蠟燭製造販賣所	寄合町	井關清兵衛
蠟燭製造販賣所	本町二丁目南西へ入(行)	大野竹之助
諸官衙御用達表具師	本町三丁目	宮田與七
斗量製作所	北町	水嶋芳助
諸國名産塗物商幷ニ諸道具品	南大工町	大德事 清瀧辰之助
免許懷爐灰烟火製造所幷ニ徽章持約一手販賣所	元寺町西ノ丁	宇治田知武
諸乾物素麵鰹節諸荒物商	萬町	岡一事 岩橋市右衛門
炭薪商	米屋町濱	岩橋兵藏
小間物商	住吉橋北へ入	古田商店

綿幷ニ和洋糸類販賣所	北町	森清助
鳥肉牛肉鰻魚鼈小鳥類飾籠賃貸幷ニ放シ鳥	魚市場	豆德事 瀧本德松
古着小袖商	米屋町ぶらくり丁	土井進一郎
諸傘及柳合利漆器類販賣所	本町一丁目	(松) 松並安兵衛
諸産石灰販賣所	米屋町	長谷平助

○廣瀬及新町組

廣瀬と往古岡の里又た片岡の里と稱せし地にして瀧屑川の流域廣大なまし比は此邊廣き瀬なましと以て名く又新町は元と新内村及吉田村の一部なりしが淺野幸長市井を畫いる比市街地となせり両部に屬する町名左の如し

廣瀬組　東紺屋町○西紺屋町一、二丁目○南細工町○北細工町○和歌町三木町南ノ丁○三木町中ノ町○三木町臺所町○船場丁○屋形町一丁目より五丁目迄○

三木町堀詰○廣瀬通丁一丁目より三丁目迄○南片原一、二丁目○元町奉行町一、二丁目○廣瀬中ノ丁一、二丁目○山蔭丁○辨財天丁○谷町○芦邊町○上魚匠町○下魚匠町○大非戸丁○畷ノ丁○岡山丁○片岡町一、二丁目○雜賀道（以上第四區）

新町組一、新中通一丁目より四丁目迄○北休賀町○坊主丁○田町○南休賀町○榎丁○上六軒丁○下六軒丁○裏田町○北ノ新地一、二丁目○楠右衛門小路○北ノ新地東ノ丁○柳丁○毛革屋丁○御差町一、二丁目○新通一丁目より五丁目迄○南材木丁一丁目より三丁目迄○茶屋町○橋向丁○西田中町○東田中町○西瓦町○東瓦町○同心丁○中筋丁○南一里山丁○北一里山丁○新留丁○裏町○吹屋丁○數寄屋丁○岡南ノ丁○分銅丁○中六軒丁○藏小路（以上第五區）○北新一丁目より五丁目迄○北新七軒丁○北新博勞町○北新戎ノ丁○北新中ノ丁○北新桶屋町○西仲間町一、二丁目○東仲間町一、二丁目○北新元金屋丁○北新金屋丁○嘉家作リ丁○鈴丸丁○畑屋敷松ヶ枝丁○畑屋敷兵庫ノ丁○畑屋敷千体佛丁○畑屋敷端ノ丁○畑屋敷西ノ丁○畑屋敷中ノ丁○畑屋敷東ノ丁○畑屋敷榎丁○畑屋敷葛屋丁○畑屋敷厂木丁○新八百屋丁○新堺丁○畑屋敷袋町○新大工町○木挽丁○岡袋町○岡圓福院西ノ丁○岡圓福院東ノ丁○岡北ノ丁○岡織屋小路○畑屋敷圓福院東ノ丁○畑屋敷圓福院西ノ丁○畑屋敷新道丁○新雜賀町○岡林泉寺丁○南雜賀町○新通六、七丁目○新中通五、六丁目（以上第六區）

○名勝舊蹟

（天妃山）岩石重疊仰て雲日を挿み俯して江河の流るゝと眺るべく風氣清麗以て神身と爽快にす山上は維新後戰死者の記念碑あり忠魂義膽凝て磐石となり以て万古に存す山上山下に櫻、桃、梅等を植附け大に光景と添へたり山下の平地に岡東館あり結構壯宏にして市民の公會堂とす又う

つぼ物語ゐ見へたる藤井の宮は此處まありしといふ
（岡東離宮）東紺屋町の河畔にあり今ハ人家建ち連れり神
亀元年十月聖武天皇本州に臨幸あり此離宮を造り給ふ
（藤六町）今の新留（にんる）町をいふ寛永年中江島藤六なる人天妃
山より石を採り新に百三十餘間の地を築き町となす依て名
けたる
（舊溜士の邸）岡山町の内城濠より屋形町まに至る間西に岡
野平太夫（三千五百石）の邸あり東に戸田金左衛門（三千石）の
邸あり又伊達源左衛門（三千五百石）は三木町堀詰まに住し水
野多門（三千石）は町奉行町まに住せり
（芝居側）今の北新博勢町を芝居側といふものあり十數年
前まで此地に芝居小屋ありしを以てなり

（牢獄趾）天妃山の南岡の谷といふ處に紀藩の牢獄ありし
が今ハ桑園となれり

○神社佛閣並教會

（刺田比古神社）岡山の麓なる片岡町にあり世人岡の宮と
いふ縣社にして廣瀬及新町南部の氏神とす近頃社殿と改
營したり
（向陽山松生院芦邊寺）片岡町にあり古義眞言宗にして本
尊ハ不動、脇士は愛染明王及び十一面觀音とす當寺はもと
讃州八嶋檀の浦の洲崎にありしが乾元元年和歌芦邊の浦
に移し芦邊寺と號せ天正年間兵亂を避て暫く山東莊まあ
り淺野家の比今の地に移し僧寮巴と中興の祖とす
（仙境山珊瑚寺）上魚匠町にあり曹洞宗とす元と和田にあ

りて三五寺と稱せしお桑山重晴之と今の地よ移し中興の祖南陽に珊瑚の念珠を贈り寺號を珊瑚寺と改む重晴役後遺骸と當寺に葬る數年前丙丁の災あり本堂燒失し當時再建の設計中にあり

（廣瀬山無邊院大立寺）　橋向町にあり淨土宗鎭西派にて本尊と阿彌陀佛創建年月詳ならず慶長九年僧圓如之を再興す

（金剛山常住院遍照寺）　柳町にあり古義眞言宗にて德川賴宣僧春盛に命じて草創せしめ城內よ安置せる不動を移して本尊とす俗よ護摩堂の不動と云ひ禮拜の客絕ゆるとなし

（光明山法泉院眞光寺）　新中通四丁目にあり眞宗なり初め

泉州日根郡にあり嘉祥寺と號し密宗なりしが永仁年間眞宗に歸し文明八年眞光寺と改め天文年中海部郡宇須よ分院と創建し其後泉州及び海部郡の兩院を遙所とす

（瑞龍山林泉寺）　林泉寺町にあり曹洞宗にて本尊は聖觀音、境內に秋葉權現の祠あり當寺よ初め林泉庵と稱し城北よありしを天正中鈴丸に移し元和中再び今の地に移轉し山號寺號よ命ず

（東曜山萬精院鈴丸寺）　鈴丸町にあり古義眞言宗にて本尊ん藥師とす境內に大師堂、行者塔、二重塔等あり往古は口須佐村よありしよ寬永三年茲よ移す釋迦涅槃の像あり涅槃會にて衆人に拜せしむ

（中島山崇賢寺）　金屋町にあり眞宗なり本尊は阿彌陀佛寬

永元年僧教誓之を創建し舊田邊藩主安藤家の菩提所にして同家歷代の墳塋あり

（上社觀音）　嘉家作丁不二山一乘院觀音寺を俗よ上の觀音といふ本尊と十一面觀音とす毎月十八日參詣の徒群集す

曾て當寺と相對して紫雲山千手院弘誓寺とて千手觀音を本尊とせし一寺あり俗に下の觀音と云ひしが維新の後廢寺に歸し本尊ハ上の觀音本堂の側ある小堂に移したり

（金毘羅）　崇賢寺の北隣觀音寺の境內にあり參詣のもの甚だ多し

（佛教共濟會）　三木町堀詰にあり眞宗信徒の設立せる處よして毎月數回定期の說教あり會長米田順誓氏

生徒ハ明治二十四年十二月調

○教　育

（公立廣瀨尋常小學校）　廣瀨通町二丁目よあり生徒二百五十七人校長橋本季吉氏

（公立大新尋常小學校）　新中通一丁目にあり生徒四百二十一人校長田中常夫氏

（公立新北尋常小學校）　新大工町よあり生徒三百六十九人校長內原庫助氏

（私立英學校）　屋形町三丁目明治二十年鈴木猛夫氏之を設立し英學及ひ數學を授く

（私立和歌山簿記學校）　三木町南ノ丁明治二十二年高村寅太郎氏之を設立す

（私立明倫書院）　坊主町明治十三年多紀仁之助氏之を設立し倫理、國文、漢學を敎授す

○醫　生

（山縣病院）屋形町四丁目にあり、院長醫學士山縣有恒氏は大學を出てより數年の間和歌山縣病院長の職を奉じ明治二十三年四月辭職し當院を設立す

内外科醫　屋形町四丁目　妻木政太郎
内外科醫　屋形町一丁目　丸山脩己
内外科醫　新通三丁目　郭　早太
齒科醫　吹屋町　松井菊之介
藥劑師　新通三丁目　前島喜一郎

○代言人

屋形町三丁目　阪本瀾一郎
廣瀨通町一丁目　吉本久隆

○橋　梁

（大橋）廣瀨通町より橋向町に向ひ藥屑川に架す長二十七間
（紺屋橋）大橋の北に架そ
（鍛冶橋）紺屋橋の北に架す
（東中橋）屋形町三丁目より番丁に架す
（屋形橋）屋形町一丁目より番町ゟ架す
（三木橋）三木町堀詰より番丁ゟ架す
（鈴丸橋）鈴丸丁より北新五丁目に架す
（伊勢橋）同丁より北新金屋丁に架す橋上より伊勢高見峠を望むへし依て名く

○銀行會社

（山崎銀行）三木町堀詰ゟあり明治十八年五月創立資本金

八万圓頭取山崎庄兵衛氏
（鹽津航通會社）新通三丁目に本社を設け新留丁より荷客取扱所あり資本金五千五百圓一株金二十五圓小蒸船鹽津丸を以て一日數回當市より鹽津港へ往復す
（鑄造會社）北新金屋丁にあり鍋釜農器を鑄造す明治廿一年十一月創立資本金五千圓一株金五十圓
（盛行社）吹屋丁にあり去る明治廿一年十二月若林儀助氏開設し諸精米を專とす

○雜錄

（大黒座）鍛冶橋西詰にあり
（田中蔬菜市場）東田中町にあり近郷より毎朝蔬菜を送り來る

（和歌山縣茶業組合聯合會議所）同所三木町中ノ丁に設置し本縣茶業に關する事務を一切管理する處なり事務員岡清七井上伊助の兩氏
（嶋村製糸場）南休賀町にあり島村安兵衛氏の所有にして明治二十年七月開設す
（山崎製糸場）岡織屋小路にあり山崎庄兵衛氏の工場にて客年より創業す
（日本基督教會）三木町堀詰にあり傳道師三谷幸吉郎氏
（新内花街）新町の東部名草郡に接する邊往時より妓樓相連なり遊女の巢屈なりしが明治六年娼妓解放の令出てより以來また娼妓を置かず今は藝妓のみとなれり街路迂曲狹隘なりと雖とも家屋の構造庭園の風致自ら備る是を以

て輕車金鞍の士一日の愉を求め一夕の快を買ふもの多く此廓に遊ふ廓を分て南北(又上下)新地となす南新地に四美館あり室大に庭廣く遠くは龍門生石の峻嶺高峯より近くは名草の山を望ミ四季折り〳〵の眺め一として欲くるものなし四美館と名くる此に因れ

○商工及ひ雜業者

綿ヂル製造販賣商	三木町中ノ丁	富田八次郎
綿ヂル洋家具諸油製造販賣	鈴丸丁	岩橋佐市郎
綿ヂル製造所	柳丁	牧野安次郎
綿ヂル製造販賣所	新大工町	村井傳
綿ヂル商	新通三丁目	安川正兵衛
本改良綿ヂル製造所	新通六丁目	竹中元七
本改良品種々綿ヂル製造販賣舗	新中通四丁目	土井保次郎
改良染元祖綿フランヂル製造商	岡北ノ丁	岩根德次郎
綿ヂル商	新中通二丁目	小瀬田淺之助
綿ヂル製造販賣所	新通七丁目	土橋平助
紋羽及綿ヂル製造所	新通三丁目	松居善助
綿ヂル製造所	新中通三丁目	佐竹幸之助
綿ヂル並ニ足袋製造所	廣瀬通丁一丁目	安井半次郎
砂糖商並ニ國產物再製販賣	橋向丁	岡本茂兵衛
砂糖商	橋向丁角	西村喜兵衛
砂糖商	中ノ島南ノ丁	岩谷民藏 (糖商組仲買)
酒類釀造商	新中通四丁目	嶋田久次郎
酒造業	南材木丁二丁目	前田辰之助

酒類商	北休賀町	中六支店
酢釀造商	廣瀬通丁大橋西詰	中屋事 赤井源四郎
米穀商	新留丁	廣田善八
米穀商	中ノ島	小川藤助
木綿卸商	新通一丁目	曾根常三郎
木綿商	新通三丁目	島村惣平
呉服太物商卸小賣	新通三丁目	竹中吉右衛門
諸國縞木綿染地類	新通貳丁目	岩橋治三郎
呉服太物商	新通四丁目	宮田幸之助
紋派及ヒ呉服太物商	橋向丁	曾根武兵衛
紋派問屋	北細工町	太田儀右衛門支店
呉服洋反物卸商	岡北ノ丁	山崎庄兵衛

萬小間物卸商	木挽丁	山崎孫兵衛
髮油製造萬小間物商	橋向丁	廣田伊助
髮油匂油蠟燭製造卸商	岡北ノ丁	上野惣助
和洋小間物西洋反物絨地洋服裁縫諸紡績糸賣捌所	新通四丁目	島村安兵衛
醬油製造商	橋向丁	中川富之助
造醬油造酢	北新元金屋丁	高松德右衛門
製茶販賣商	三木町中ノ丁 鍛冶橋西詰	岡清七
質商	北新中ノ丁	宮本治右衛門
質商	新八百屋丁	宮本吉右衛門
染物商	北新三丁目	新屋事 森安兵衛
色染業	東紺屋町	小原金之助
色染所	南材木丁三丁目	由良福松

色染業　南材木町三丁目　(定)　宮田定楠
材木商　南材木丁一丁目　(上)　井畑半右衛門
木材商　東紺屋町　松本庄兵衛
材木商幷ニ挽物類　南材木丁一丁目　(戈)　雜賀定五郎（雜駒事）
木材商　北新五丁目　橘吉右衛門
木材桶木商　北新三丁目　(田)　田井金藏
吉野材木問屋商　嘉家作リ丁　上野政右衛門
材木商挽物類　新雜賀町　竹中彌吉
板樽木商　南久賀町　坂田若太祐
樽木商　新雜賀町　關勝太郎
木材商　北新五丁目　(囚)　山田治兵衛
板樽丸商　北休賀町　村上敬一

材木商　新雜賀町　(坂)　楠見榮助
酒樽幷酒桶製造販賣所　南材木丁二丁目　吉田政藏（樽屋喜右衛門事）
材木商　北新五丁目　橘爲五郎
牛乳搾取所　岡山町三年坂　並木牧牛場
石油各種卸賣所並ニ精製石油安心火止再製造販賣　大橋西誥通リ丁三丁目　(今)　池田幸之助
下駄商　新留丁　出繁藏
權衡製作修覆所　新通四丁目　嶋佐兵衛
石材製造業　北新金屋丁　島伊兵衛
石材製造業土木建築請負　北新金屋丁　薗部熊吉
石材製造所　東紺屋町　大平竹次郎
諸藥品商　新通三丁目　藥劑師　前島喜一郎
東京各國荷物取扱所　三木町中ノ丁　岡崎廻送店

保健胃腸散本舖　屋形町四丁目　生理藥舖　山田洲

各國有名改良賣藥特別販賣所
和漢洋藥品、醫療器械
全國有名改良賣藥大販賣所
衛生化粧品仝飲料品販賣店
新通一丁目西側（衛生堂）（松九商店）　松嶋九兵衛

諸紡績糸洋糸絹糸商　新通三丁目　㊤　橋爪源助支店

鍋釜製造所　金屋丁　鑄造會社　鈴木伊三郎

諸金物商鍋釜鑄造販賣○專賣特許厨爐和歌山縣下一手販賣
延壽散懷爐灰製造販賣
兼両換諸公債株券舊金銀賣買
新通四丁目　川崎喜右衛門本店

諸菓子粉幷ニ小麥粉製造　北新元金屋丁　直川吾一

石版印刷　岡南ノ丁　岩根德次郎石版部

立具商　新中通六丁目　令　鈴木政吉

立具商　新堺丁　大野源之助

和漢洋書籍及京都熊谷鳩居堂
村田海石撰定墨小學校用樂器類
鐵製金庫　新通三丁目　㊂文昌堂書舖　三宅小次郎

蠟燭製造幷ニ紙販賣　北新東仲間町　个　久保藤助

煙草商　林泉寺町　楠見嘉吉

肥料商　中ノ島　津村佐助

製茶煙草正藍販賣所　中ノ島　吉　大亦吉六

大工業建築請負　屋形町二丁目　奥山松兵衛

筆墨商　内國勸業博覧會　明治十年第一回墨　明治廿三年第三回筆　新通六丁目　川島潭水

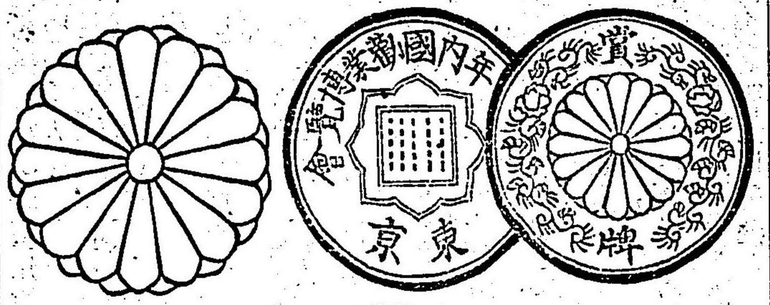
諸車諸器械製造幷ニ鑄物類　三木町東詰　松嶋菊松

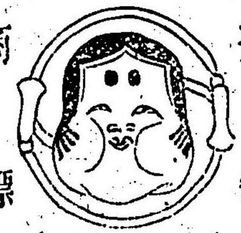
内外諸紙商幷ニ帳簿類　新通四丁目　東　福　吉備丑之助

羅紗地販賣洋服商　南細工町　仝　吉田政之助

印判版木彫刻師、活版印刷所
東京印刷局製造印肉種々　新通三丁目　蒼海堂　太田猪三郎

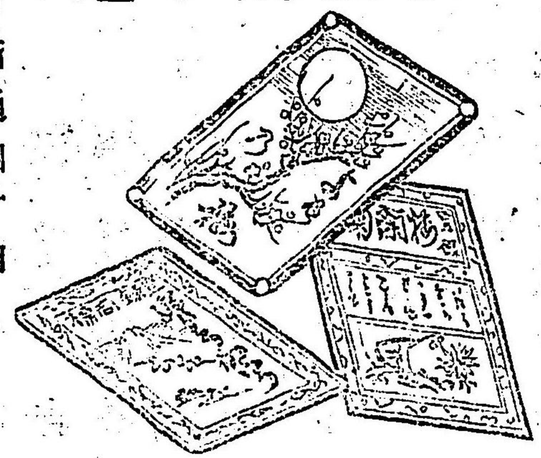
有功賞牌　褒狀





登錄商標

農商務省登錄商標之圖



髮油
香油
蠟燭
香水
製造

和歌山市新通四丁目

福

島村富次郎製造

席貸業

上等料理仕出シ　廣瀬通り丁一丁目　魚吉事　四美館

席貸業　北ノ新地田町　觀耕庵

烟火製造販賣所　岡山丁　松本澤右衛門

○湊及吹上組

湊と上古雄の湊、吹上と吹上の濱なりし地よりして共ゟ海部郡に屬したり其町名左の如し

湊組　傳法橋南ノ丁○湊紺屋町一丁目より三丁目迄○湊北町一丁目より三丁目迄○湊本町一丁目より三丁目迄○小野町一丁目より三丁目迄○小人町○小人町南ノ丁○道場町○男ノ芝丁○北汀丁○南汀丁○西汀丁○東阪ノ上丁○西阪ノ上丁○北阪ノ上丁○東長町一、二丁目○材木丁○網屋町○上町○下町（以上第七區）○雜賀屋町○雜賀屋町東ノ丁○有田屋町西ノ丁

○有田屋町南ノ丁○上野町一丁目より三丁目迄○小松原通一丁目○湊通丁北一丁目より四丁目迄○徒町○廣道○久右衛門丁○東長町三丁目より六丁目迄○北甚五兵衛丁○南甚五兵衛丁○駕町○北仲間町○南仲間町○七曲り○植松丁○西河岸丁○北牛町○南牛町○西長町一丁目より四丁目迄○北土佐丁○南土佐丁○北田邊丁○南田邊丁○加納町○北相生丁○有田屋町（以上第八區）

吹上組　湊通丁南一丁目より四丁目○茶屋ノ丁○芝ノ丁○湊桶屋丁○東長町中ノ丁○東長町七丁目より十一丁目迄○尾崎丁○南相生丁○出口甲賀丁○出口中ノ丁○金龍寺丁○出口端ノ丁○出口新端ノ丁○小貝丁○作事丁○洲崎丁○小松原通二丁目より九丁目迄○眞砂丁一丁目二丁目○寺町○車阪西ノ丁○溝ノ丁○車阪一丁目二丁目○豐原丁一丁目二丁目三丁目四丁目○車阪南ノ丁○擂木丁○大泉寺丁○中橋筋○苫屋丁一丁目二丁目三丁目○玉藻丁一丁目二丁目○北河岸一丁目より五丁目迄○磯山丁一丁目より四丁目迄○鳴崎丁○新堀二丁目迄○新堀非戸ノ丁○新堀南ノ丁一、二丁目○東徒町○中徒町○西徒町○新堀北ノ丁一丁目より三丁目迄○鹽木丁○二十軒丁○新堀七軒丁○濱見丁（以上第九區）

○名勝舊蹟

（學習館跡）　湊紺屋町一丁目北側にて今和歌山蠶糸會社及び南方酒店の在る處なり天明七年德川家之を創建し藩士の子弟を修學せしめしが維新後廢せらる

（傳法）　天正十三年京都紫野の文彌司根來大傳法院を毀ち其木材を京都に運送せんとしたるを秀吉の咎むる處となりしを此地に棄て去るに依て傳法と名く

（雄の芝）　水門神社の境内あり或は本町六丁目の横なりと云ふも定かならず今城西の高地と男の芝と云ふ蓋

し雄の芝の名は彦五瀬命流矢に中り男建して薨し給へるよりて起りしものなれば其比の地形より考れば今の男の芝丁となすを適當ならん歟

（水天宮の櫻）傳法の西にあり湊紺屋町より一橋を架し之を材木橋と云ふ水天宮の祠あり社前數株の櫻樹を植ゆ花時昂を曳くもの多し

（城山）久保丁より上町に至る間土地稍隆起しさる處を云ふ天文年間中國の探題大内義隆は臣陶晴賢城を茲に築き以て住す

（植松長者舊地）植松丁と云ふの地なり

（巨商雜賀屋舊地）雜賀屋町にあり雜賀屋は近代の長者にて保田長兵衛と云ひ此地に住せしが漸く衰微し凡そ二十年前他に轉したり

（昌平河岸）湊片原と云ふ文化年中此名を附す

（扇ヶ芝）城の西南扇狀の平地と云ふ明治の初年迄は此地に騎射場、堂形、眼鏡池等ありたり堂形は德川氏入國の初藩士の射術練修の爲め京都蓮花王院三十三間堂は形を摸し建營せしものにして今の師範學校の下にありさり堂又の西を日惠の芝と稱せしと云ふ此地當時師範學校農業實習地たり

（醫學館跡）雜賀町東側にして今の神田病院の存在せる所なり寛政四年四月十八日德川氏命じて之を創設せしむ

（神子池）東長町七丁目にありもと此池畔に巫女の住するあり紀藩より二十五石を賜ひ毎年和歌祭に出仕せり

（舊藩士の邸）久野丹波守（一万石）の邸は小松原通一丁目にあり今尚は其半を存し半は監獄署となれり金森孫右衛門（二千五百石）と同四丁目より、村上與兵衛（三千石）は同六丁目に住し朝比奈總左衛門（三千石）ハ西汀町今の裁判所附屬地に住せり

（岡城趾）尋常師範學校の東南丘上にあり佐原義連本國の守護職たりし時茲に住し子孫數代相嗣ぐ後畠山義就また茲に居れり

（大智寺趾）岡山にあり紀隼山大智寺は徳川頼宣僧聖譽に命じ開基創建せし有名なる巨刹なりしが維新後之を毀ちて今は唯礎石の存するを見るのみ

（原見阪）今の島崎町を云ふ此所より眺望すれば廣瀬新町の街衢より名草郡の田野一時に眸中に入る

（湊築地）牛町加納町等を築地と云ふ天保七年歳稔らず翌八年米價暴騰加ふるに悪疫行はる細民飢餓に迫るもの多し時の執政卽ち窮民を役使し兵地を築かしむ南北八町東西二町五月中旬工を起し六月上旬に至て成る窮民之に依て食を得るもの万を以て數ふ

○神社佛閣幷教會

（水門神社）小野町にあり蛭兒の神と祀る又境内に伊達神社あり五十猛命を祀る蛭兒神社ハ元と鵜嶋にありしが風波の害あるを以て此ゟ移せり伊達神社は初め鳴神にあり中古吹上の濱に移し後更に茲ゟ遷せり

（海善寺）道場町ゟあり玉隆山と號し淨土宗西山派ゟしく

本尊を阿彌陀佛とす境内に王船現權社あり神功皇后三韓より凱陣の際乘り給へる船を崇め祀ると云ふ當寺及び王船神社に共に鵜嶋にあるしが明應年間茲に遷せり境内墓地に李眞榮及び李梅溪の碑あり眞榮は明朝の末歸化の人にして寛永十年十二月十九日沒す梅溪は眞榮の子にして母は當地の人なり紀藩の儒臣に擧けられ其遺書今尚ほ多し天和二年十月廿二日沒す其後裔今尚ほ市内に住す又眞榮の碑の左側面に李立卓之墓の五字を刻せり立卓も亦此地に葬られしならん

（林鶯山憶西院長覺寺）　西汀町にあり眞宗なり天正五年正月僧清光（初光超覺俗姓北畠權中納言具教）之を和歌の北の山上に創建し彌勒寺と號す（彌勒寺と卽ち其舊地なり）後此地に移し長覺寺と改む當時は住僧北畠清德氏は清光の後あり堂宇頗る壯嚴なりしが今や漸く頽廢せり

（救主教會堂）　長覺寺の北隣にあり該堂の事務奥田利郎氏之を擔當す

（吹上寺）　男の芝町にあり臨濟宗にして天年山と號す僧圭瑞の開基にして初め車阪にありしが後茲に移す淺野長晟の夫人茶毘の地なり境内に夕霧伊左衛門の墓あり今尚ほ香花の絶ゆることなし夕霧は大阪新町吉田屋の遊女伊左衛門は當地の巨商にして板屋町に住したりと

（詔賢山正住寺）　東長町一丁目にあり元と眞言宗なりしが文明中僧日住之を再興し日蓮宗に改め其初め湊魚店（牛町邊）にあり慶長年間元町に移し寛永の比今の地に轉す

（白雲山報恩寺）眞砂町二丁目にあり日蓮宗にして徳川光貞僧日順をして創建せしむ日順は藩士石野昌巳の子にして高僧の聞へあり

（里宮山壽經院無量光寺）車坂西ノ丁にあり淨土宗にして文政年中之を創建す徳本行者之を開基とす

（曹源山大泉寺）豐原町にあり曹洞宗にして本尊と聖觀音脇壇に曾我兄弟の位牌を安んす當寺は淺野幸長僧宗慶に命ーて之を創建せしめ幸長沒後遺骸を當寺に葬れり

（常住山感應寺）島崎町にあり日蓮宗にて初め駿河富士山の麓にあり瀧泉寺と稱ー密宗の巨刹なりしが日蓮身延山修法の時住僧其宗風を慕ひ改宗し明應元年感應院と改む元和六年徳川氏當時の住僧日陽に命し當市新通一丁目に

移さしめ翌年三月今の地に轉す本堂の後方丘上に徳川頼雄（本地院殿守玄日得と號す）の墓碑あり

（南嶽山禪林寺）同町感應寺の北にあり臨濟宗にても淺野家の菩提所たり本尊と釋迦佛とす

（車坂稻荷）車坂にあり以前は大智寺の境内なりしを以て今尚同大智寺稻荷と云ふものあり小祠なるも奇瑞ありと稱し遠近より參詣するもの多し

（新堀神明社）新堀西ノ丁にあり本殿に天照太神を祀るも と城の近傍にありしが寛永一五年茲に移す

（天理教會和歌山出張所）東長町十一丁目にあり奈良縣大和國山邊郡三嶋村神道直轄天理教會の出張とす

○官衙

和歌山市

（縣廳）西汀町にあり明治二十一年一月祝融の災に罹り數月の後再築の功を遂ー二十二年三月三十一日を以て落成式と擧ぐ二層の高厦にーて總建坪五百六十九坪七合五勺搆内廣濶なり

（和歌山市役所）同町縣廳表門と入れは右おあり元と紀藩の米廩たりし建築物を假用せ

市長	長屋喜彌太	助役 加藤泉
收入役	志賀楠之助	市參事會員 渡邊鐵心
市參事會員	野口惟和	同 宮本吉右衛門
同	北嶋七兵衛	同 中村喜代三郎
同	竹中吉右衛門	市會議長 森懋
同議長代理	山田正信	

（地方裁判所附屬舍）縣廳の西隣にありもと始審裁判所茲に在ーが今や其附屬舍となる地方裁判所長吉永成德檢事正岡田豐等の諸氏茲に住を

（和歌山測候所）男の芝町吹上寺境内よあり海面よりの高さ十四メートル余東經一英國綠威司天臺を起点とす百三十五度九分北緯三十四度十四分とす

○教育

生徒の數は明治廿四年十二月調

（縣立和歌山縣師範學校）眞砂町（岡山）おあり昨年女子部と設置ー男女の生徒常に百三四十名あり校長田中善雄氏

（公立雄尋常小學校）湊紺屋町一丁目よあり生徒四百十四人校長前澤末吉氏

（公立湊南尋常小學校）上野町おあり生徒四百十五人校長

西郷文三郎氏

（公立吹上尋常小學校）小松原通五丁目にあり曩日新築の工を竣へ教室講堂等完備せり生徒二百六十八人校長夏目糸三郎氏

（私立簿記數學專修學校）湊通町南四丁目にあり明治十九年草野萌氏之と開設す

（共立豫備學舍）北汀町にあり明治十八年宮崎米作氏之を設立一尋常中學校入學志望者に授くるに相當の學力を以てせり

（豫修館）湊通町南三丁目にあり明治二十年藤本芳雲氏之を設立す英學、漢學、數學、簿記學等を授く

○雜誌

（紀伊教育會雜誌）小松原通一丁目紀伊教育會事務所より發行ス

○衛生

（神田病院）雜賀屋町にあり土地高燥よして空氣清潔且つ診察所、手術室、病室等の建築最も注意を加へたるを以て入院療養の患者常に室よ滿ち外來患者門前市をなせり院長神田瑞穗氏と久しく職と和歌山醫學校の教諭に奉じ又同校附屬病院の副院長を兼ねーが同校の廢せられし後此病院を開設せり

内外科醫　小野町三丁目　高橋艮平

同　東長町五丁目　西村祐敬

同　小人町南ノ丁　木梨貞齋

産科醫　北相生町　佐武正元
小兒科醫　東長町七丁目　長谷川又平
藥劑師　久保町二丁目　河島敬太郎
同　東長町六丁目　栩野平七
同　東長町九丁目　辻野儀平

○代言人

小野町二丁目　橘由太郎　雜賀屋町　川口龍太郎

○橋梁

（湊橋）小野町一丁目より十三番町へ架す
（汀橋）西汀町縣廳裏門前より八番町に架す
（傳法橋）傳法川に架す其南詰を傳法橋南ノ丁と云ふ
（加納橋）加納町より青岸街道に架す

○會社及び工場

（和歌山紡績會社）傳法橋南ノ町にあり綿花紡績業明治二十年九月創立一以來專ら製糸に着手せしが近來販路非常に多かりしを以て不日工場を增築し錘を增ス一層業務を擴張する由社長赤城友次郎氏

（和歌山蠶桑會社）湊紺屋町一丁目蠶桑業明治廿三年三月創立資本金三万二千四百六十五圓一株金五圓社長栗原市郎右衛門氏當社及ひ東、西牟婁郡蠶桑會社ハもと士族授産金より成る明治廿三年一月縣令知事は各郡士族總代を召集ス縣廳ゟて保管せし桑園五十八町三畝十歩外に官沒地一町七反五畝十五歩現今三万三千六百六十七圓九十四錢九厘外に七十六圓七十四錢六厘と引渡により總代之より數

日間會議の末和歌山市外六郡と西牟婁郡東牟婁郡の三部お分ち其部内居住士族の戸口お應一之と分配し同年三月を以て三箇所に蠶桑會社と設立せり

（内外用達會社皮革製造場）傳法橋南詰西へ入る處にあり製靴業本店は東京々橋區銀座二丁目資本金五十万圓

（和歌山濱船株式會社）久保丁三丁目濱船運漕業明治二十四年十二月創立第一、第二紀盛丸を以て當市より大坂神戸の間を航行す

和坂間乘客賃錢　上等四十五錢〇中等三十錢〇下等二十錢

（和歌山曳船組）湊本町三丁目よあり濱船壯飛丸を以て數船の和船を曳き當港より大坂、堺、兵庫、神戸、灘等に航行ス

（日本運輸會社管理店）小野町一丁目にあり物貨運送業本店と東京日本橋區大傳馬壹町資本金五十万圓當管理店長牛尾與業氏

（玉榮社）南土佐町燐寸製造業明治廿三年三月瀨戸市次郎氏之を設立す

○雜錄

（紀伊教育會事務所）小松原通一丁目よあり縣知事を會頭と推す紀伊教育會雜誌を發行ス又一昨年來小學教員講習會を開々り

（紀伊水產會事務所）西汀町にあり前本縣知事石井忠亮氏を會頭とす

（生榮社）ハ小松原通七丁目にあり胞衣汚物取扱を業とす明治十九年の設立よして安藤英楠氏等の組織とる處あり

と云ふ

（魚市場）材木町濱永原勘三郎店に於て毎朝魚市あり本縣浦々より輸入する處の魚類と茲に持ち集め商ふ

（時鐘）岡山にあり市費を以て之を設置す

（吉野材木産業組會所）同會所は豫て湊本町三丁目に設置し吉野郡より下す木材を都て監督する處なり

（神田滊船會社荷客取扱）久保丁三丁目栖原回漕店

紀攝勢尾四州沿海を航通し從來神田丸、熊野丸、蜂須賀丸、宇都宮丸の四隻を以て航海を營みしが今度更に勢尾丸、紀洋丸、紀攝丸の三隻を增船擴張せり

（熱田共立滊船株式會社荷客取扱）久保町三丁目本榮舍

滊船第一第二第三第四第五第六共立丸第二正義丸雷電丸黃金丸神宮丸東海運輸丸遠賀丸等を以て大阪神戸より本縣湯淺日高田邊熊野路各港を經て伊勢尾張等に至る

栖原回漕店及本榮社各港乘船賃錢表左に掲く

大阪神戸上等金四拾錢中等金三拾錢下等金貳拾錢○湯淺上等四十錢中等三拾錢下等貳拾錢○日高上等六拾錢中等四拾五錢下等三拾錢○田邊上等壹圓中等七十錢下等五拾錢○周參見上等壹圓參拾錢中等九拾錢下等七拾錢○串本上等壹圓五拾錢中等壹圓下等八十錢○古坐上等壹圓六拾錢中等壹圓拾錢下等八十五錢○勝浦上等壹圓七十錢中等壹圓貳十錢下等九十錢○三輪崎上等壹圓七十錢中等一圓二十錢下等九十錢○木ノ本上等一圓八十錢中等一圓三十錢下等一圓○尾鷲上等二圓中等一圓五十錢下等一圓十錢○長嶋上等二圓二十錢中等一圓七十錢下等一圓貳十錢○其他略ス

（大阪商船會社荷客取扱）　久保町四丁目共立社

瀛船名草丸等を以て和阪間を往復す乘船賃金他ハ會社と同ト

○商工業及雜業者

綿ネル製造販賣商	湊北町三丁目	山田儀兵衛
綿ネル製造販賣商	小野町一丁目	坂口文助
綿フランネル製造販賣商	湊本町一丁目	前田義夫
綿フランネル商	植松丁	北嶋七兵衛
綿ネル製造業	湊北町二丁目	硲熊次郎
綿ネル製造業	湊北町一丁目	福嶋利助
洋反物卸賣綿ネル製造販賣	東長町二丁目	松廣和助
綿ネル製造販賣商	小野町一丁目	三村營吉

綿ネル製造販賣商	小松原通七丁目	高橋貞
綿ネル製造所	湊北町一丁目	楠本藤助
綿ネル製造販賣商	東長町五丁目	上野山源兵衛
生糸、繭、屑物、眞綿ノ賣買仲立、蠶種、桑葉ノ賣買仲立、蠶糸用ノ器具、蠶種原紙桑苗賣捌	小野町一丁目	由和尾商會
登錄商標 銘酒南星本店 清涼滋潤 紫蘇酒本店 南紀特產 密柑酒本店	湊紺屋町一丁目	南方常楠酒造場
造酒商	久保丁一丁目	志賀安太郎
酒造業	小野町一丁目	佐久間豐吉
酒類販賣所	新堀北ノ丁一丁目	三尾彥右衛門
和洋酒類販賣所	東長町十丁目	松田眞平
諸國材木問屋商	小野町二丁目	吉田安右衛門

材木商	久保丁四丁目	撫養淺吉
材木商	久保丁四丁目	增井啓次郎
材木問屋	湊北町二丁目	瀧野新次郎
材木商	湊西河岸丁	增井吉兵衛
材木商	湊西河岸丁	平野安吉
板樽木商	湊北町三丁目	小野田庄助
材木問屋	小野町三丁目	川邊太兵衛
材木商	湊北町三丁目	楠本仙太郎
樽丸商	湊紺屋町三丁目	關榮造
材木商	湊紺屋町三丁目	小野田勝次郎
板樽木商	久保丁四丁目	增井保次郎
竹幷ニ材木挽物商	網屋町	近谷竹楠

材木幷樽丸商	久保丁三丁目	中村新助
種油用安全ランプ和歌山縣下特約大販賣所 種油製造石油賣捌所	久保丁壹丁目	掛下商店
油・商	小松原通八丁目	弓場武助
西洋雜貨商	久保丁一丁目片原	山本友次郎
染工業	小野町一丁目	才村伸四郎
色染業	植松丁	津村保松
廻船業	植松丁	橘市右衛門
廻船業	上町	吉野楠太郎
廻船業	上町	吉野久兵衛
廻船業	久保丁三丁目	榎本保次郎
廻船業	湊北町三丁目	中川奈良吉

廻船業　湊上町　次　池田次郎吉
土木請負業割石販賣幷ニ手傳方　小野町二丁目　正　原庄右衛門
工事請負業　久保丁四丁目　上　西本用助（用助方）
質商　東長町二丁目　南川十右衛門
質商　南甚五兵衛丁　木本直吉
專賣特許保險付　才賀屋町神田病院前　崎山防水靴製造所
靴製造所　小野町一丁目片原筋　原和三郎
槍皮葺柿葺請負業　西汀丁　山崎政吉
牛乳搾取所　小松原通三丁目　平松牧蓄場
棕梠雜貨製造所　湊北町三丁目　島能夫
塩湯業　湊本町一丁目　内村正治
漁船荷客取扱所　小野町三丁目　勝丸廻送店

夜具綿幷ニ正綿兼質商　湊北町一丁目　岩　高橋德藏
古道具賣買幷ニ庭石類　東長町二丁目　上野善右衛門（大善事）
炭薪幷ニ木柴灰問屋商　湊紺屋町二丁目　今　雜賀利兵衛
生搗白米商卸小賣　久保丁二丁目　コ　坂田市兵衛
藍商　久保丁一丁目　△　岩橋万助
諸藥品販賣所　久保丁二丁目　濟生藥舘
和漢洋藥品及化學試驗藥品販賣醫療器械及顯微鏡用附屬品及色素〇賣藥幷ニ繪具大販賣　東長町六丁目　藥劑師　栩野平七
和漢洋藥販賣所幷附屬品賣藥大弘所　東長町九丁目　藥劑師　辻野義平
呉服太物商　東長町三丁目角　余　六角商太郎
呉服太物商　東長町十一丁目　林利助
硝子商專賣特許硝子切和歌山縣下特約一手販賣人ペース製造販賣　東長町十一丁目　直　中野宇三郎

立具商	上町	岡安兵衛
醬油釀造商	小松原通八丁目	三尾惣三郎
那賀郡伊都郡川筋南陽社柑類荷扱所幷ニ諸荷物廻漕	久保丁四丁目	日野由松
滊船荷物乘客取扱所	小野町三丁目	勝丸廻漕店
滊船荷物運送業		曳船組
製靴、洋物商、荒物	東長町五丁目	瀬戸吉右衛門
有功賞牌賜 十八年京都博覽會 十九年東京共進會 廿三年大博覽會 魚果物類漬物幷ニ料魚商	湊寄合橋西詰	角清
驅蟲散一名蚤取粉製造販賣所	海部郡湊村大字八屋敷 安眠堂	和田辰五郎
平澤流易占幷ニ諸願届代筆所	敎仙橋筋五行ノ辻西エ入ル南側	福田學淳

海部郡

○地理

海部郡ハ本國の西北部海に瀕せる地と云ひ名草郡の一端及ひ和歌の灣と以て北、中、南の三部の分たる北部ハ名草郡の西にあり北は葛城山脈と以て和泉國日根郡ニ界し西南は海に面し友ヶ嶋と隔て淡路ニ對し加太、西脇野、木ノ本の三村に分る加太より磯脇の間ニ加太山あり其海面に突出する處と飽浦岬と云ふ中部は紀ノ川ニ跨ク東北は和歌山市及ひ名草郡に隣し西南海に瀕す湊村外三村に分れ紀ノ川の海口を和歌山港又雄の港と云ふ雜賀崎の西方に大嶋、中島、双子島あり南部は東北名草郡ニ接し南有田郡ニ連り西北海に枕む加茂村外五村に分る其名草郡に界する處に

藤白山脈あり有田郡と境に長峰山脈あり藤白山脈の海中に突出する處と荒崎と云ふ其西南ゑ浦の初島あり

○沿革

本郡北部はもと名草郡貴志村をも包括しさるが其後郡界を變更し今の境域となれり又中の一部は郡區編制前まで和歌山市の内湊と稱する地を包括せり南部も亦今の日高郡に屬する由良、衣奈、白崎等の地を統括したりしが明治十二年今の境域ゑ改めさり維新後第二大區に方り五小區に分劃せしが其後大小の區を廢し十二の戸長役場と置き町村制實施の際十三村四十七大字に分てり今名草郡と共に一郡役所の下に管轄せらるる

○名邑

（加太）と北の一部の西海岸にあり淡路街道の一驛ゑして大寶二年正月始て此驛を置けり鰯及び裙帶菜を以て名あり

（和歌）い中の一部の海岸にあり和歌山と距ること一里餘戸口稠密なり

○名勝舊蹟

（和歌浦）又明光浦と稱す日本三景に次げる一勝地ゑして玉津嶋、東照、天滿、南龍等の神社あり

（芦邊浦）和歌浦の東入江ゑ芦の多く生じたるを以て名つく和歌海苔は此浦ゑ產す

（妹背山）又郭公山、嚴嶋等の稱あり芦邊浦の江中ゐある一嶋ゑ云て石橋あり陸ゐ架すを三斷橋と名く山上ゑ多寶

塔あり慶安二年之を草創す又東麓に拜殿あり又觀海閣と號す江を隔て名草山に對し風光絶佳なり

（不老橋）芦邊より和歌の海濱に至る處の石橋を云ふ

（かたをなみ）和歌浦の南に海濱を云ふ世に片男波の文字を用ゆるは非なり此稱は「和歌の浦に潮滿ち來れば潟を波あしへをさして田鶴鳴とたる」の古歌より出でしものにて潮ミち來れば汐干潟も波となり夫が爲に群を居たる鶴も芦邊の方に

飛び行くさまを詠せしなり

（望海樓の遺跡）玉津嶋神社の後なる朧山にあり聖武、稱德の諸帝臨幸の舊蹟とす

（養珠寺山）朧山の峰續きにして山麓に養珠寺のありしを以て名く同寺と承應三年德川氏の創建に係り母公養珠院の位牌所なりしが維新後廢れたり

（雜賀城趾）養珠寺山の北字尾崎にあり城主鈴木佐太夫は藤堂高虎に謀られ粉河に於て割腹す

（彌勒寺山）雜賀村にあり本願寺別院と往時此山上にありしが永錄六年四月鷺ノ森に移す其後天正五年僧超覺彌勒寺と茲に創建せり依て山に名く彌勒寺と後湊に移す今の長覺寺之なり此山は雜賀の役に本陣を設けし處とす

雜賀の役　元龜元年九月十三日織田信長始て大谷光佐(顯如上人)を大阪の石山に攻むるやうして諸國の眞宗信徒怨を信長に抱き屢々騷亂を起す就中雜賀庄の信徒其勢最も盛んなり依て先づ之と平げ根基を覆さんと欲し軍略を謀す時に雜賀の三成及び根來杉坊等信長に通ず信長大に喜び謀を決し三成、杉坊等と先導者とし天正五年二月十五日自ら河內君江に出張玄秋田信忠、北畠信雄、神戶信孝等として五万餘騎を率ひ進んで貝塚に至らむ雜賀方の鈴木孫市之と聞き俄ま門徒を中洲の城に召集す時と誤らせして來まるもの岡崎三郎太夫、同次郎三郎、同十藏、土橋平次郎、弟三平、甥平八、隱居遊道齋、鳴本左門太夫、木下甚太夫、同文藏、宮本平太夫、上口刑部、木本左近、弟左門、穗

出五郎右衛門、乾源內太夫、中嶋孫太郎、甥大六、和歌玄意、三非松遊軒等と初めとし總て八百餘人又後れて來るものあり其兵凡三千人彌勒寺山を本營と玄壘を宇須山、東禪寺山、和歌甲崎、玉津嶋等に設々兵と分て之を守らしむ又小雜賀川中にい桶壺等を沈め柵、逆茂木と搆へ紀ノ川の水を堰入れ以く人馬を惱まさんとを期くて鈴木孫市等敵を貝塚ゟ防がんとし兵と率て同地ゟ出張せしも衆寡敵せざ軍を山口に退け險ゟ據と勝を制せんとし然るよ敵軍間道より侵入し直に中洲の城を襲ふ雜賀の兵相議して的場源四郎を招き彌勒寺山の本營を護らしむ鈴木孫市も亦急に兵と本營に歸す時よ三月三日信忠れ先陣佐久間右衛門尉信盛精兵五千と率ひ栗栖街道よと來り南い紀三井寺門前より北

は吹上峰の麓まで陣を張り一擧ゐして雜賀の諸將を鏖殺せんとす關四郎八郎同遊道齋手勢五百人を以て甲崎に防戰し大に敵兵を苦まーむ鈴木、岡崎、土橋、木下等此虚に乘ゑ奮擊突戰ー的塲源四郎また進んで敵陣を衝く信盛遂に禦ぐ能ハぜーて敗北す此時雜賀の兵關戸矢ノ宮社前ゐ集り舞踏ゑて凱歌を奏す和歌東照宮の祭禮に雜賀躍と稱するものあるゑ此に基因す後信長雜賀れ兵侮るべからざるを知り三月二十八日和と講す

（敎如の窟）雜賀崎村大字雜賀崎にあり本願寺の法主敎如曾て曾て信長の爲に追はれ身と此に隱す

（根上り松）和歌街道にあり

（天正寺山）雜賀村大字字須にありもと金龍山天正寺のありし處にーて當今耶蘇敎信徒の墓地たり

（荒濱）和歌山港よま大浦港に至る間の海濱を云ふ往古吹上の濱と稱せし地れ一部なり白砂青松と相映し遠く之を望めば阿波、淡路の諸山一眸の裡にあり近く之と眺むれば白鷗波間に眠る夏時ハ海水浴客群集そ

（西濱御殿跡）雜賀村大字西濱ゑあり德川家別殿のありし所とす

（湊御殿跡）湊村大字今福の西にあり是亦德川家別殿のありし處にしく維新の比ハ藩士の練兵塲たりーゲ今は田畑となきり

（苫ヶ嶋）又友ヶ嶋と云ふ加太村に屬す神功皇后韓より凱旋し給ふ折鷁首此近傍に向ふ遇々大風あり將に之を覆さ

んとす皇后卽ち艦頭に立ち天神地祇と祭り苦を海中に投し其流るゝ處に隨ひ船を進む遂に一島を得たり是れ今の苦ヶ嶋の內神島あり苦ヶ島茲に因す嶋地皆奇怪巖奇石而も樹木蓊鬱し眞に一箇の仙境たり往時役小角此島に於て法を修す大戻り、入道浦、鋒口、釣鐘、眠石、閼伽井、鯨骨、子持石、胎內潜り、觀念窟、劍の池、深蛇池等あり曾て仁德天皇此島に幸し給ひしと云ふ沖の嶋には燈臺あり

（御所の芝）　藤白峠にあり花山、白河の二帝行宮跡あり

（加茂城跡）　加茂村大字小松原にあり加茂氏の居城とす

（山非崑崙墓）　同村大字梅田廣福寺內にあり山非君彝名い鼎、通稱善六、崑崙と號す當村大字小南の人なり祖徠の門に遊び其名天下に顯はる

（梶原氏城趾）　大崎村大字大崎にあり

（加茂谷の梅）　加茂谷に梅樹を栽培すること多し就中小南と最とす

（浦の初島）　椒村に屬す沖島地島其他數小島あり

○神社佛閣

（東照宮）　和歌浦の西方山上にあり東照權現、日吉山王權現、及び摩陀羅神を祀る元和七年十一月德川賴宣之を創建し往時は雲蓋院（天台宗僧慈眼開基之が別當たりしが維新後唯一の神社となせど社殿、拜殿、唐門等善盡し美盡したり按するに德川家康は元和二年四月十七日薨す翌年三月二十一日東照大權現の神號と宣下あり正保二年十一月九日更に東照宮大權現の宮號と賜ふ現今縣社に列せられ每年陰

曆四月十七日を以て祭典を行ふ維新前は其式甚た嚴かゝ
ざる神輿渡御の行列中ゟ長刀振、赤白母衣、連尺、棒振、太皷、拍
子鉦、笛、螺貝、請棒、雜賀踊、鷺ノ森踊、唐船、笠鉾、餅搗踊等あり
又海上に於て關船の舞踊あり和歌山城下一般業を休み藩
士悉く社殿に參拜し遠近より老若男女夥しく群集し近國ゟ
稀なる大祭典なり玆が維新後故典大ゟ廢り昔日の壯觀を
呈せずと雖も近府縣より來り詣るもの甚た多し

（天滿宮）東照宮の西の山上にあり延喜元年菅原道眞太宰
府に左遷せらるゝの折海上風波烈しく船と此濱ゟ寄す
康保年間橘直幹此地に遊び懷舊の情ゟ堪へず遂ゟ社殿を
創建す降て慶長十一年淺野幸長之と改築せり

（南龍社）東照宮と天滿宮との間の山麓にあり紀藩の祖德
川賴宣を祀る近年の創建ゟ玆ゝ縣社に列せらる賴宣と家
康の男なり慶長七年三月七日伏見に生る初め常陸二十万
石を領玆次で駿河遠江五十万石を食む元和五年紀勢五十
五万五千石の領主となり和歌山城に入る寛永三年八月十
九日從二位に叙し大納言に任せらる寛文十一年正月十月
和歌山に於て卒す海部郡濱中長保寺に葬り南龍院と諡す

（玉津島神社）芦邊浦臨山の麓にあり世俗衣通姫と祀ると
云ひ又神功皇后を祀るといふものあり古は玉出嶋とせし
と古史に徵ればー維新以來社殿大に頹廢せしが昨年改造
せり社の南東不老橋の畔ゟ窟の祠あり本社祭禮の際神輿
の渡御せし處跡あり故ゟ又興の窟と云ふ

（護國山五百羅漢寺）和歌街道より關戸ゟ至る徑路と分岐

する處の東側にあり曹洞宗とす

（秋葉權現）五百羅漢寺の後方山上にあまた寛政五年之を創建せ境内楓樹あり以て吟情を催すへし又田中善藏氏の碑あり

（矢宮）雜賀村大字關戸にあり健角身命（たけつぬみのみこと）を祀る本社と天正年間雜賀の役に兵燹に係り僅に一小祠を存したるが寛永四年徳川頼宣有司に命じて正殿一宇、末社二宇、拜殿、瑞籬、華表等を再興せしむ

（木ノ本八幡）木ノ本村大字木ノ本にあり神功皇后及び應神天皇と祀る創建年月を詳にせす神功皇后及ひ譽田別皇子（應神天皇）頓宮趾なりと

（加太淡嶋神社）加太村大字加太にあり正殿にて少彦名命（すくなひこなのみこと）、相殿にて月讀命（つきよみのみなと）、大己貴命（おほあなむちのみこと）、氣足姫命（おきなたらしひめのみこと）を祀る當社にもと苫ケ嶋の内神嶋にありしが仁徳天皇の御宇此地に移し始て他の三神を合祀せり氣足姫命（神功皇后）を祀れるは命神嶋に着船し給ひし時少彦名神社を祭りしに因れり世俗に云ふ嫁して兒なきの婦女此神に祈るときは懐姙すと又航海者は常に海上の安全を此神に祈る

（大川の圓光太師）加太村大字大川にあり慈雲山報恩講寺と號す本尊は圓光太師なり承元二年十月二十一日太師讃州に京に歸るの折海上風波に逢ひ船と此地に寄せ留ると數十日里民を教化す後ち阿闍梨孫右衛門等相計り一宇を建て報恩講寺と名く

（慶徳山陽照院長保寺）濱中村大字上にあまた天台宗にして

長保年中慈覺大師の門徒之と創建す序で一條天皇勅して堂宇を造營せしめ應永年中眞言宗に改め寛文六年更に天台宗に復す徳川家累代の墳墓あり有名なる巨刹とす

○交　通

北部には淡路街道あり和歌山市より名草郡松江村を經く加太村に達す加太港より海路淡路より渡る日々船便あり中の一部には和歌山市より里和歌に通ずる和歌街道あり又和歌山、大浦の二港及び和歌の灣は船舶を泊するよ足る就中和歌山港は本縣第一の港よして紀ノ川の海口に當り定期各港に航海する漁船多し南部よと熊野街道の和歌山市より名草郡を經て本郡に來り有田郡お入るあり又太崎、鹽津等の諸港あり鹽津、和歌山市の間よい日々數回小瀧船の航通あり

燈臺は苫ヶ嶋の西端にあり明治五年六月之を創設す水面より高さ十九丈餘第三等不動白色の光明十七海里に達す

郵便局い北、中、南の三部よ各一ヶ所あり未だ電信局の設置なし

○官　署

名草郡の部を見るべし

○教　育

公立小學校五十七教員四十二人生徒二千五百四十八人あり學齢兒童七千四百人內修學者二千六百九十二人とす其他い名草郡教育の項を參照すべし

○衛　生

醫師二十五人あり内專門醫十三名とす産婆十九名）藥舗一戸藥種商二戸賣藥製造者十九戸同請賣者五百五十四名あり尚ほ名草郡の部を參照すべし

内外科醫

湊村大字今福　郭　嘉四郎
和歌村　神保勝次郎
同　岡本利見
雜賀崎村　宇治信吉
同　松本徹楠
木本村　高田厚德
加太村　阿波竹之助
同　今井立道
西脇野村　中嶋熊太郎
湊村　藤井桂四郎
同　壹岐正緒
同　中島秀太郎
木本村　垣内三郎
同　中村俊藏
加太村　今井立道
同　今井清
西脇野村　小山田竹次郎
雜賀村　三木棟
加茂村　榎本昌軒
同　中尾森松
鹽津村　木原德一
大崎村　三浦民九
貴志村　貴志立庵
同　山本禮之
同　横山嘉壽吉
同　西岡道仙
加茂村　岡室周敬
鹽津村　竹田慶安
同　山本淳吉
濱中村　伊藤義賢

○産物

海苔、牡蠣、裙帶菜、鯛、鰯、海參、鹿角菜等の水産物は富み又橘類及び梅子を産す海苔及び牡蠣と和歌の名産とし裙帶菜、鰯は加太より出で鯛は雜賀崎漁民之を漁獲す橘類及び梅は加茂谷より産す特に梅子は養老梅と稱し各地に賞用せらる

○商工業及雜業者

麥桿製造、漁業	雜賀崎村大字雜賀崎	橋本自助
穀物商	加太村大字加太	川五 幸前吾一
商	同村仝大字	雜崎久助
商	同村仝大字	幸前文次郎
質商	雜賀村大字關戶	谷屋 谷非勘藏
醬油並に肥物商	和歌村大字和歌	米定 鈴木定右衛門
書籍荒物諸紙筆墨商鳩居堂筆墨	鹽津村	小山新平
薪商	和歌村大字和歌	荒五 木村五郎兵衛
魚問屋	仝村仝大字	泉尾 高非貫一郎
綿ネル商	仝村仝大字	中尾榮次郎
綿ネル商	仝村仝大字	和中金助

綿ネル商	湊村大字外濱	中谷嘉兵衛
製蠟商	加茂村大字小松原	中尾十右衛門
肥物商	鹽津村大字鹽津浦	中甚 中山甚吉
肥物商	仝村仝大字	八九 石橋八九郎
商	仝村仝大字	桝惣 九鬼惣四郎
荒物商	仝村仝大字	峰新 小山新平
商	仝村仝大字	中山嘉助
商	仝村仝大字	丸谷堂吉
穀物肥物廻漕業	大崎村大字大崎	柏屋 藤岡韮一郎
穀物肥料廻漕業	仝村仝大字	岡屋 西岡彌四郎
製蠟商	仝村仝大字	山中又七郎
山物問屋	仝村仝大字	綿新 御前新右衛門

製蠟商　濱中村大字上　小間物　川村惣太郎
製蠟商　仝村仝大字　山路藤右衛門
山物問屋　仝村下津浦　廣井イソ
山物問屋　仝村仝大字　〃崎重郎太夫
山物問屋　仝村仝大字　酒本茂平次
製蠟商　椒村大字椒濱　小森嘉八
製蠟商　仝村仝大字　河內屋　北村音楠
製蠟商　仁義村大字與　佐古善之助

○旅人宿

和歌村　芦邊屋藪　清一郎
加茂橋本　松本儀兵衛
鹽津村　米澤八助
和歌村　米藥　藤村佐次郎
鹽津村　中野治兵衛
大崎村　梶本由松

濱中村大字上　上西龜吉
濱中村上　市木力藏
西脇野村西庄　山田マツエ
同村　大阪屋利光平次郎
同村　藤屋　羽藤八郎兵衛
濱中村上　門脇千代ノ
湊村青岸　小笠原登
加太村　正木屋中嶋喜右衛門
同村　新屋利光新太郎

名草郡

○地　理

北は葛城山脈を以て和泉國日根郡に界し東は那賀郡に接し南は有田、海部二郡に隣り一西ハ和歌山市及ひ海部郡ヲ連り一部は海に瀕す葛城山脈ヲ雄の山あり大坂街道ヲ當る其西に峙つを雲山峯とす那賀郡の境に最初ヶ峰及ひ磔ヶ峰あり南境に藤白嶺あり郡の西南ヲ名草山あり其他之土地平坦よし沃田齊圖相連る紀の川ハ郡の北部と貫き其支流雜賀川は和歌山市と貫注一南に走り海に入る一に和歌川と名く又宮堰川は那賀郡ヨ於て紀の川に岐れ本川の南を流れて和歌山市に入る

○沿　革

名草と上古邑里の名なりしが成務帝の御宇之を以て郡名とせり往時と貴志村大字境谷以西海部郡に属したりと云ふ又今の内海村と近時まで海部郡に属せると本郡にもと和歌山、田邊、新宮の三藩に分属せしが明治四年十一月全く和歌山縣に歸せり斯くて大小區と置くに方り本郡を第一大區とし十小區に分ち其の第一、二、三小區と和歌山の市街なりしが郡區編制の際此三區と割て和歌山區に属せしめ其他の各村を二十一の戸長役場部内に分割せり明治二十二年更に二十九村百四十八大字とせり

○名　邑

（秋月）郡の中央にありて宮村に属し官幣大社日前、國懸両社及び海草郡役所、同警察署等此にあり

（黒江）名草山の東南にありて海を控み熊野街道の一驛たり人口稠密商工の業甚だ盛なり古來漆器の製造を以て名あり

（日方）黒江の東南にあり戸口多く商業盛に行はる

（中之島）同の西方にありて和歌山市に接續し一市街をなす紀ノ川上流に沿へる地方往復の要路に當れり

○名勝舊蹟

（紀の關趾）又白鳥の關といふ雄の山の麓山口村大字湯屋谷にあり履中天皇の朝阿智使主（阪上田村麿の祖）に命じて此關を守らしむ

（山名義理の壘趾）川永村大字永穂にあり近傍を古戰場と

（鳴滝）有功大字薗部ゐあり丘壑窈窕として飛泉懸り楓樹四周に生ゆ秋季霜を得て紅と潮せば來遊の客多し

（薗部重茂城趾）同地にあり重茂の後裔今尚は此地に住す

（岸村行宮趾）貴志村大字榮谷ゐあり天平神護元年十月稱徳天皇行幸の際此行宮に入ㇾ給ふ

（徳勒津宮趾）四箇郷村大字新在家にあり仲哀天皇二年三月南國に巡狩し此宮に居給ふ

（役優婆塞の遺跡）役優婆塞葛城山脈を巡り法と修し法華經二十八品に摸ㇾ二十八箇の修驗道と定む直川村拂才天の嶺、墓の谷、錢法ヶ嶽及び有功村鳴滝等皆な二十八道場の内なり

（葛葉の里）又た國津輪と云ふ岡町村大字壘道に於ける古

への小名なり

（太田城趾）宮村大字太田にあㇾ今は田畑となれり應仁文明の比天下大ㇾ亂れ豪族各地に割據し猥貪蠶食各厭くと知らず社寺領私領を撰ひとなし是ㇾ於て當時紀國造俊連延徳年所々に城を築き家臣飯垣周防守を秋月城に同村垣内播守と忌部山城に同田所平左衛門を三葛郷城に居らしめ太田城を自家の居城とす降て天正十二年豐臣秀吉織田信雄を尾州小牧ゟ攻るや家康兵を出し信雄と援く此時紀國造忠雄信と家康ㇾ通ㇾ秀吉の兵を他ゟ分たんと欲し家臣戸口彈正、村垣藏人、堀内大炊介等ㇾ土兵三千を附し根來寺の僧徒と相結托ㇾ泉州岸和田ㇾ至ㇾ城主中村孫平次と戰ふ之よりして秀吉怨を國造家及び根來僧徒に抱き同

十三年三月自ら兵を率ひて根來寺を燬き進んで太田城を攻む城と繞りて堤塘を築くこと五十餘町紀ノ川を堰て水と宮堀、小倉非の二川を落し以て城廓を漂さんとすること二十餘日同年四月二十二日城兵首長五十一人の首を斬り秀吉ゐ降る

（湯橋温泉の趾）　西和佐村大字岩橋字湯の谷にあり天平寶字三年八月此地に温泉涌出す其流るゝ處に黄金橋ゐつて架れゐ依て地と名て湯橋と云ふ應永年間足利氏此地と山城男山八幡の神領に寄附し岩橋と改む

（江南の行宮）　安原村大字江南よあり神功皇后鋭紫より都に還御あらせらるゝ折忍熊王師を起し之と待つとのことと聞召し武内宿禰に命じ譽田別皇子を懐き南海に出で紀水門より此地に至り行宮と造り居らしむ今八幡神社のある所は即ち其舊蹟なり

（阿備柏原離宮）　同村大字松原にあり譽田別皇子江南の行宮に居給ふ時離宮と茲に造る其處と柏原と云ふ武内宿禰誕生の非なり

（津田浦）　同村大字朝日の舊名にて往古と海濱の碇船場たりしなゐ

（岡田城趾）　龜川村大字岡田ふあり畠山義深の家臣遊佐某茲に居る

（龜が池）　龍村大字阪非よあり周圍三十町餘本縣第一と大池とす

（布引松）　祀三井寺村大字布引海濱の松と云ふ傳へ云ふ紀三非寺草創の當時海中より梵鐘を曳揚ぐるの際布を此松

ょ結び一端を梵鐘に繋ぎ之を曳きーと以て名くと

（大野城趾）大野村大字大野中ょ東西二城趾相對す東に在るを本城となす建武年間淺間入道沙彌覺心茲に住ー延元中其息忠成之に嗣ぐ正平十九年細川淡路守宗茂之を有ち野瀨鄉右衛門と代官とす至德より明德ょ至る間山名義理在城す義理亡て大內義弘此城を賜ふ其臣平井豐後之と守る次て畠山滿家當國の太守となりし時遊佐豐後守を守護代とし茲ょ住せーむ天文年間同筑前守之ゐ代る天正の比遊佐美作守、神保某等此城に據り秀吉の爲に陷らる

（黑江城趾）黑江村大字黑江より南池崎より山上にあり明德中山名義理れ弟韋山駿河守之に居る

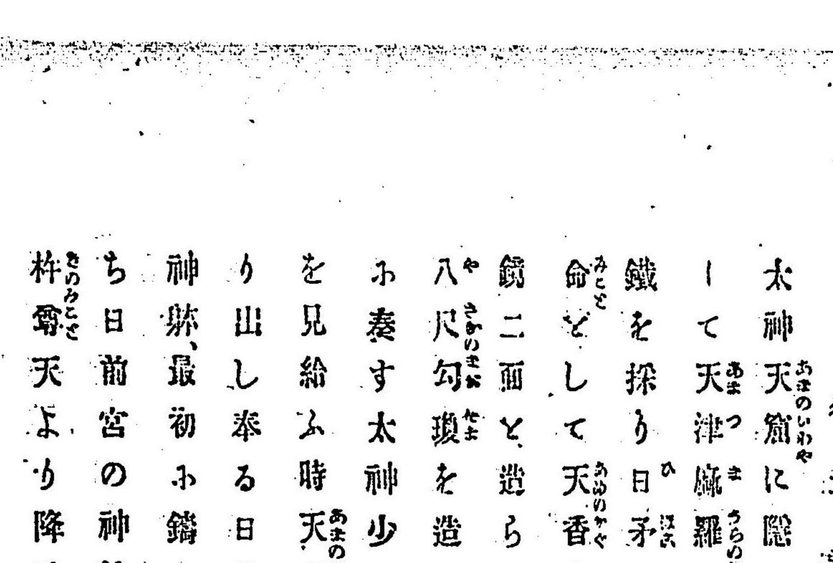
（琴の浦）紀三井寺村大字毛見より黑江村大字船尾に至る間の海濱をいふ

（鈴木氏の宅）內海村大字藤白ょあり鈴木氏姓は穗積饒速日命五世の孫伊香色雄命の後胤なり二千五百有餘年子孫連綿として絕ゆるとなく以て今ょ至る其間俊傑の士を出すと少からず就中三郎重家は源義經に從ひ各地に戰功あり奧州衣川の戰に義經に代て討死し名を千歲に殘せり重家の舍弟龜非六郎重清も亦兄と共に源家ょ屬ー衣川に於て討死す慶長年間德川家康大阪と攻むるに方り當家の一族其陣に加はる依て淺野家より賞田若干を賜ふ又古への天子熊野行幸の際は必ず當家ゐ御小憩ありしと

○神社閣佛

（日前、國懸兩官幣大社）宮村大字秋月にあり神代の昔天照

太神天窟に隠れ給ふや諸國相謀りて天津麻羅命をして天金山の鐵を採り日矛を造らしめ石凝姥命をして天香山の銅を採り八咫鏡二面を造らしめ玉屋命として八尺勾瓊を造らしめ舞樂を窟前に奏す太神少しく窟戸を開て之を見給ふ時天手力男命御手を取り出し奉る日矛は卽ち國懸宮の神躰、最初ふ鏑る處の八咫鏡と卽ち日前宮の神躰に云て皇孫瓊々杵尊天より降臨ー給ふに方り太



神之を召し三種の天璽と此二神寶とを尊ふ與へ是皆な吾魂なれ之吾前を拜するが如くせよ云々と命せらる夫より神、武天皇中原を平定し天道根命を木國造に任じ命じて日前、國懸兩神靈を祭らしむ道根命之を奉じて加太浦より木ノ本ふ移り毛見村琴の浦ふ至り海中れ岩上に安置す降て崇神天皇六年皇女豐鋤入姫命をー て天照太神の靈を大和笠縫邑ふ祭らしむ(神靈と後に錺る所の八咫鏡其後豐鋤入姫命神靈と奉じ地を各所ふトしー同帝五十一年四月八日毛見村濱の宮に遷坐す此時木國造日前、國懸兩神靈と同地に遷し天照太神と竝べ祭る斯くて同五十四年十一月天照太神の靈と名方濱の宮今の名高閤曳の森)に移し四年にして更ふ大和に移す然れども日前、國懸兩神靈は依然として毛

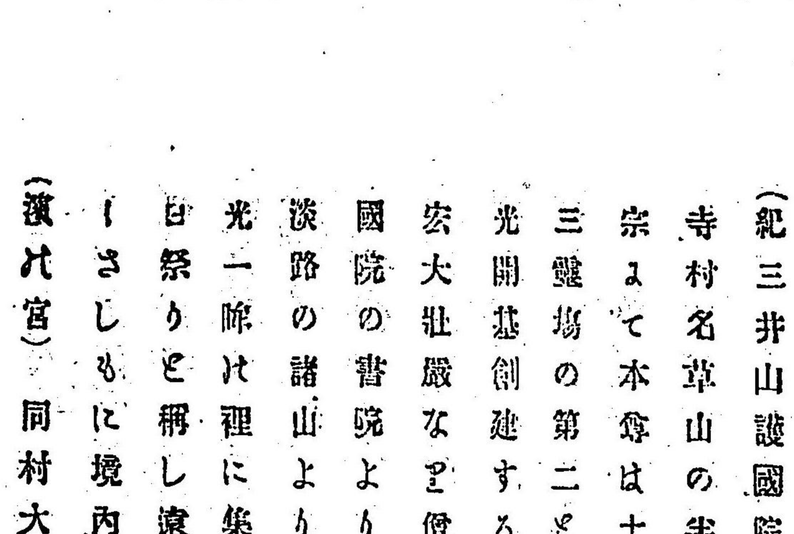
見濱の宮にあり垂仁天皇十六年に至り之を万代宮に遷す即ち今の地なり古と神領多く社殿善美と盡せしが天正十三年秀吉太田城水責の際荒廢に歸し神主紀忠雄神靈と奉じて高野山に逃れ亂定て後ち小祠を營ミ安置せしを寛永四年德川頼宣之を再興したり日前宮は境内の西にあり相殿に石凝姥命恩兼命を祭る末社三十周圍に列座す國懸宮は東にあり相殿に鈿女命玉屋命を祭る亦た三十の末社あり其他攝社二十境内に配置す

両社宮司正五位男爵紀俊尚氏と即ち天道根命の後胤にして神代より今に至るまで子々孫々相嗣き未だ曾て絶ゆることなく實に稀有の名家とす左れば凡そ八十代の間名を天下に博したるもの少からず六代宇治彦七代忍勝九代豐耳三十九代行義四十二代孝弘五十五代淑文五十六代淑氏五十七代俊文五十八代親文五十九代俊長六十代行文六十一代行長等其名最も顯はる

（竈山神社）　三田村大字和田にあり官幣中社にして彦五瀬尊を祀る尊は神武天皇と共に中原を平定し大和の長髓彦と孔舍衛阪に戰ひ流矢に中り紀の水門に至り薨し給ふ依て御遺骸を此山に葬る當社創建の年月詳ならず宮司倉田績氏は和歌山市水門神社の詞掌を兼ぬ

（伊太祈曾神社）　西山東村大字伊太祈曾にあり國幣中社にして五十猛命を祀る神代より亥の森に鎮座せしと和銅六年十月今の地に移す此神は即ち當國に木種を蒔き給ひしなり

（紀三井山護國院金剛寶寺）紀三井
寺村名草山の半腹にあり古義眞言
宗にて本尊は十一面觀音西國三十
三靈場の第二とす寶龜元年唐僧爲
光開基創建する處にして堂塔伽藍
宏大壯嚴なる僧坊數宇あり本坊護
國院の書院より眺れば遠く阿波、
淡路の諸山より近く和歌浦の風
光一眸の裡に集る毎年七月九日千
日祭りと稱し遠近の老若男女群集
いさしもに境内立錐の餘地なし
（濱八宮）同村大字毛見にあり天照



太神及び日前國懸二神を祀る事由と日前國懸兩社の項に見へたり

（黒江本願寺懸所）黒江村大字黒江にあり西本願寺派の懸所とす永正四年冷水御坊を茲ふ移し天文十九年更ふ彌勒寺山に移す

（受陽山知足院總持寺）野崎村大字梶取にあり淨土宗西山派七檀林の一として八十餘の末寺あり本尊は阿彌陀佛寶德二年僧光雲開基創建す

（大福山本惠寺）直川村にあり日蓮宗にして本尊は千手觀音役優婆塞の開基にして初は山中にあり千手寺と稱せしを正安元年今の地ふ移し堂塔伽藍を造營ふ十二の僧坊ありしが天正の兵燹に罹り悉く焦土に化す慶長年間平塚

久賀之を再興し日蓮宗の僧日忠を中興の祖とし寺號を本
惠寺と改め宗派を變じたり當寺は大福山の半腹にありて
千手川其麓を流れ風景明媚なり俗に直川觀音といぬ
（南叡山法華院大同寺）有功村大字六十谷にあり天台宗本
尊之藥師如來とす大同年中僧傳教勅を奉じて之を草創し
以後圓仁慈覺等相續て當山に來錫し堂宇伽藍を增營し後
鳥羽帝も亦熊野行幸の際風輦を寄せ給ひ勅して山内に陵
を造らしむ
（栗林八幡神社）四ヶ鄕村栗林にあり永享十一年足利持氏
自刃し鎌倉の騷擾一方ならず鶴岡八幡の社僧難の社殿に
及ぶんことを恐れ神躰を奉じて播州赤穗に遁る嘉吉元年播
州亦た亂る社僧再び神躰を負ひ當州宇治村字前嶋（今の二

十五本松）に來り社殿を建營す天正の亂同地の社寺多くは
兵火に罹りしも當社幸にして其災を免れ寛永十三年二月
德川賴宣命ゝて之を茲に遷し社殿を造營す
（志摩神社）中之島村にあり中津嶋姫命を祀る創建年月を
知らず明德四年足利義滿之を再興せしめ輪奐は美を盡し
たるに惜哉天正の兵火に烏有に歸し後再建したりと雖ども
舊時の偉觀に似ず
（岡崎本願寺懸所）岡崎村大字森小手穗講堂山にあり鷺の
森本願寺別院の懸所とす延寶六年和歌山宇治光明寺を移
し之を建つ
（弘誓山天王院滿願寺）同地にあり古義眞言宗にて弘仁三
年僧空海之を草創す一條天皇の勅願所にして七堂伽藍を

造營し給ひしお延久三年祇融氏の災あり次て天治二年鳥羽上皇再興一堂宇壯嚴僧坊三十六宇ありしに爾後數回火災に罹り大に舊形を損せり

○交通

大阪街道は和歌山市より本郡に入り雄の山ど越へ泉州に至る大和街道は西和佐村に於て大阪街道より分岐一那賀郡に入る淡路街道と那賀郡より起り本郡を經て海部郡に達するもの及び和歌山市より出て本郡を貫き海部郡に入るものとあり熊野街道は和歌山市より發し本郡の西部を走り有田郡に至る又鳴神村より西和佐村に至り大坂街道に達する粉河紀三井寺街道あり共お皆な車を通せさる處なし

紀の川を以て舟後を通すへし又架するお北島、宇治、直川、田井の瀬の諸橋を以てせり

港灣の船を碇するに足るものあーと雖とも日方、黒江の両地と船舶の出入するもの少あのらそ

郵便局は六ヶ所にあり郵便電信局は日方にあり以て東西音信の便お供す

○官署

（名草、海部郡役所）宮村大字秋月にあり

郡長（年俸八百圓）正七位　平田綱一郎

第一科長　九鬼善一

第二科長　國中太郎

（名草、海部郡警察署）同地にあり加太、川永、黒江の三所に分署を設く

署長　警部　市川利常

○教育

公立小學校百三十二教員八十三人生徒六千三百二十八あり學齢兒童一万四千六百八十二人内修學者六千五百八十四人とす

私學校よは西和佐村に斯道學校あり紀伊村に明治學校あり共ゝ讀書を授く

教育上の團体には紀伊教育會海草支會あり小學校教員を以て組織す

○雜誌

（身體）三田村大字和田高見葛陽氏之と發行す衛生的雜誌にして無代價に諸方に配布す

○衛生

醫師五十三人内專門醫二十五人とす産婆八十人藥舗一戸藥種商九戸賣藥製造者三十二戸同請賣者千百八十九戸あり

團体には海草醫會産婆會大日本私立衛生會和歌山支會海草郡部會あり

内外科醫

川永村　伊藤恭寛
黒江村　桑原愼三
川永村　宮崎辨九郎
西和佐村　岩橋守一
日方村　岩橋義洋
宮村　黒田健造
内海村　河村政雄
宮村　吉田文次郎
有功村　松島彦長
山口村　木村得齋

内海村　豊島棟太郎
宮村　松見之純
龜川村　長石兵之助
山口村　松本敏
楠見村　久保綱哉
三田村　新山文友
山口村　山田研眞
紀伊村　小溪敬造
黒江村　片山寛助
龜川村　奥野兵策
日方村　三田吉次郎
中ノ島村　井上修徳

三田村　高見嵩陽
安原村　木下博
貴志村　林直樹
野崎村　南川親祇
紀伊村　小溪元修
野崎村　島園恒齋
紀伊村　平田健司
鳴神村　石井常之丞
内海村　豊島有謙
東山東村　川口周道
巽村　森本正善
日方村　川口龜次郎

宮前村　巽儁太郎
巽村　品川玄正
黒江村・豊島大造
日方村　中谷杏造
岡崎村　崎山宗徳
紀三井寺村　柏木禎造
岡町村　巽潜之丞
内海村　木村長輔
西山東村　宮本玄一
西山東村　生駒敬次郎
岡町村　藤井達招
楠見村　中村大之丞

龜川村　笠松一眞
宮村　黒田凉澤
黒江村　石井遂眞
三田村　柏木義之助
安原村　岡村淳敬
日方村　淺非常次郎
岡崎村　弘田大輔
和佐村　朝稻俊造
宮村　吉川亮山
川永村　木村大次郎
直川村　澤田滴司
中ノ島村　生谷昌平

○代言人

宮村大字吉田　和田磐終

○産物

漆器、傘、食鹽、松蕈、筍、西瓜、木綿、菜種等にして漆器は黒江にて製し洋の東西を販路を有す傘は日方より製出し食鹽は專ら三葛より出る松蕈及び筍と山東に産し西瓜と松江及び布引より産出を近來柑類を培養するもの多き往時の山口の壯夙村より弓を製出し紀州弓と稱し諸國に賞賛せられしが今や其業廢をたり

○雜錄

（河南水害豫防組合）明治二十四年七月の創設にして那賀、名草二郡及び和歌山市の内紀ノ川より南岸に沿ひ水害の憂

ある地を區域とし海草郡長之を管理す全區域を四方面に分ち各方面の擔當堤防及び擔當市村を定め一方面を四人乃至六人の委員と常備水防夫五十人乃至百人を置き又水防に必要ある器具を備ふ

（國判連署の士）中村三郎太夫、田屋助太夫、直川助太夫、永穗中小太夫、田井執行太夫、湯橋新太太、栗栖犬楠丸の七人各廣原平野を開拓して田畑となす其効を依り下司職を命せられ各莊庄を支配し承安より元弘の間之を國判連署の士と稱す

（屠牛場）岡町村田畑の中にあり日々數頭の牛を屠り專ら和歌山市及び近村に賣捌けり此近傍に一老松あり四方の嵐の松と云ふ古い枝葉繁茂し以て雨を凌ぐに足りしが近

来風害數にして枝梢大に凋衰せり

○商工業及雜業者

綿テル商	宮村大字秋月	三	秋月庄兵衛
仝商	岡崎村大字西		鈴木林吉
仝商	仝所		阪口總夫
仝商	鳴神村大字鳴神		岡本重次郎
仝商	宮村大字有家		園村紋右衛門
仝商	紀三井寺村大字紀三井寺		岩崎富三郎
仝商	仝村仝大字		中塲信次郎
仝商	仝村大字三葛		石川德五郎
仝商	仝村仝大字		南方吉九郎
仝商	紀三井寺村大字紀三井寺		濱野ノ民楠
仝商	山口村大字平岡		明渡雄三郎
仝商	川永村大字川邊		木村藤四郎
仝商	宮前村大字抗ノ瀬		瀬村彌一
仝商	仝村仝大字		鈴木級
仝商	大野村大字大野中		宮原安之助
肥物商	黒江村		名手由兵衛
漆器商	仝		名手由兵衛
仝商	村	滑水屋	滑水芳太郎
仝商	村	木地重	木下重藏
漆商	村	備新	岩橋新三郎
漆商	村	川助	内田喜八郎
漆器商	村	川六	川端六左衛門
仝商	村	香幸	堀田幸次郎

漆器商	黒江村	綛幸	宮本幸次郎
折敷商	村	黒傳	高橋傳四郎
漆器商	〃	菱金	菱川庄五郎
〃商	〃	木地九	木下九郎兵衛
酒造商	〃	名手源	名手源兵衛
漆器商	〃	冬重	冬野重助
〃商	〃	多治作	多治見作兵衛
漆器山物商	日方村	魚宇	角田宇兵衛
漆器山物商	〃	魚清	角田清兵衛
穀物醬油商	〃	名手屋	田中重太郎
魚商	〃	魚三	寺脇三右衛門
山物商	〃	清水屋	清水與次兵衛

山物商	〃	大正	石倉正右衛門
荒物商	〃	備忠	柳忠右衛門
漆器商	〃	魚新	魚非新助
呉服毛綿商	〃	鼓根由	兵衛
荒物商	〃	田嶋屋	田島常楠
呉服商	〃	辻清	辻清三郎
穀物商	〃		柳仁兵衛
呉服商	〃	長崎	橋本長兵衛
山物商	〃		石倉茂一郎
山物商	〃		塩崎久七
醬油商	〃	谷屋	谷井隆藏
肥物山物商	内海村大字名高	木ノ七	木下七左衛門

傘商			
肥物回漕店	岩井屋	宮井定助	
傘商			
穀物商			
肥物商			
酒造商			
酒商			
酒造商			
酒商			
油商			
肥物穀物商			
質商			

内海村大字名高	岩井屋	宮井定助	
仝村仝大字		宇野邊八助	
仝村仝大字	岩政	宮井政七	
仝村仝大字		岡本平三郎	
仝村仝大字		木下吉兵衛	
仝村仝大字	谷屋	谷井竹藏	
仝村仝大字	町文	玉置文助	
仝村大字鳥居	山安	山西新太郎	
仝村仝大字		山西幸四郎	
楠見村大字市小路		池田又市	
松江村大字松江	米理	太田サトエ	
有功村大字薗部		薗部三郎左衛門	

酒商			
油商			
油商			
酒並ニ油商			
酒造商			
酒商			
呉服商			
酒穀物商			
製蝋商			
質商			
油商			
穀物商			

川永村大字川邊	角屋	平松綠太郎	
仝村仝大字		平松茂一郎	
仝村仝大字		津名捨松	
山口村大字里	錢屋	山口孫次郎	
仝村仝大字		谷口眞一	
西和佐村大字岩橋	沼平	沼平助	
中ノ嶋村		岡崎圓助	
鳴神村		小澤阜一	
岡崎村大字井邊	辻吉	松井武八	
仝村大字寺内	油善	辻井吉左衛門	
宮前村大字小雜賀		川崎善吉	
		小澤眞助	

質商　岡町村大字岡町　宮本孫助
肥料並質商　紀三非寺村大字紀三非寺　松田友楠
山物商　大野村大字幡川　角山　森本新七
山物商　巽村大字坂非　非戸庄　井上菊松
藥種商　仝村仝大字　金一　山本勝之助
商　龜川村大字且来　中非定右衛門
製蠟商　仝村仝大字　湯川林兵衛
商　仝村仝大字　小坂伊兵衛
製蠟商　西山東村大字境原　山縣久左衛門
酒商　仝村大字伊太祈曾　林　廣助
旅人宿　山口村大字滝畑　瀧本六右衛門
旅人宿　紀三非寺村　大米屋　猪川六郎
旅人宿　黒江村丸佐　片山佐助
旅人宿　日方村めかね屋　稲非宇吉
旅人宿　山東村伊太祈曾　角源　奥野龜太郎
旅人宿　仝伊太祈曾　藤屋　藪龜太郎

那賀郡

○地理

那賀郡と名草郡の東にあり北ハ葛城山脈と以て和泉國泉南、日根の二郡ニ界ー東は伊都郡、南ハ有田郡に連接す紀ノ川郡の中央を横斷ーて南北の二部に分つ河北と土地平坦おーて沃田膏野相連ると雖も河南ハ山岳重疊し溪谷の間に村落を見るのみ郡中著名ある山嶽を龍門山とす形富士山に似たると以て紀州富士の稱あり又飯盛、麻生津（おふづ）の諸山あ〻相連亘して高野山に聯る又河川にハ野上川、根來川、粉川、春日川、名手川等あり共に皆な紀ノ川に注ぐ

○沿革

本郡の大半ハ往時高野山金剛峰寺領たりーが明治二年堺

縣に編入せられ同三年轉して五條縣に屬し同四年總て和歌山縣の管轄する處となれり郡内の區劃はもと池田組、岩手組、田中組、山崎組、小倉組、野上組、粉川組（續風土紀に據る）に分ちしが維新後本部を第三大區とし十二小區に區分し後ち區を廢して二十六部落とし各部落に戸長役場を置く明治二十二年更に三十六村二百五十一大字となせり

○名　邑

（岩手）ハ和歌山を距る殆んど四里紀ノ川を沿へり郡役所及び警察署所在の地なして小市街をなす元和年中此地を傳馬所となし今尚ほ大和街道の一驛たり古と毎年十二月二十六日盛んなる市場を開けりと

（粉河）と岩出と距ること二里餘紀ノ川の北岸土地稍隆起せる處よりり郡中第一の大邑にして一市街をなし商工の業盛んに行はる古は此邊を總稱しく鎌垣鄉と名くたり古來鎗造を以て名ある地にして今尚ほ其業と營むもの數戸ありり

（名手）粉河の東にあり大和街道の一驛とす

（根來）岩手の北、葛城山の麓あり根來寺のある處にして往時法風の盛んなるとと諸般の事業殷盛と極め就中漆器製造彫刻等に名あり今其業廢をたるとと雖ども當時は製品にして今尚ほ、各地に存するもの尠なうふも根來椀、根來彫等と稱して大に賞用せらる

○名勝舊蹟

（塔の芝）上岩田村大字西國分にあり古の國分金剛明寺の

趾なり元慶三年二月二十二日火災に罹り堂塔伽藍總て烏有に歸せり

（田中井戸）田中村大字窪にあり古は名所の一と算へしが今は沼地となれり

（車塚）同村大字東大非にあり曾我五郎時宗の妾大磯の虎女薙髪して熊野に參詣せんとし此邊りまで來り病んで死す里人哀んで其遺骸と其乘り來りし車とを茲に葬ると云ふ

（和田城趾）池田村大字古和田にあり楠家一族の居城なりしと

（春日山城趾）同村大字中三谷春日山の頂にあり往時岩田八郎あるあり北朝に奉仕し此城に據り生地、牲川の兵と戰ひ延文五年七月討死す春日山の前に八郎ヶ峰あり即ち古戰場なり

（櫻池）長田村大字北志野にあり本郡中有名の大池にして慶安三年工を起し三年にして成る

（小竹の行宮趾）同地にあり神功皇后三韓を征伐して都に還り給ふの折此行宮に留り給ふ

（猿岡山城趾）粉河村粉河寺境内にあり藤堂高虎の城趾なりと

（鎌垣行宮趾）粉河村大字粉河の東畑の中にあり天平神護元年十月稱徳天皇此行宮に駐驛あり

（御所の芝）鎌垣行宮趾の東にあり花山法皇、白河法皇粉河寺臨幸の折仮宮の舊蹟なり

（祇王の舞田）鎌垣行宮趾の北方ある耕地なり傳へ云ふ祇王と粉河の人あり京に登り舞踏を以て名と知らる其父過ち罪を得て幽囚の身となる祇王京に在て之を聞き倉惶歸り來て牢を守るものに請ひ父に對面し歌舞をなしたる處なりと

（玉垣勾頓宮趾）王子村大字非山方にあり神龜元年十月聖武帝本國へ行幸の折頓宮を茲に設く

（富士崎）紀ノ川の北岸にあり伊都郡に近き處にあり奇巖水中に突出して千尺の老松空と凌で長へに不斷の琴と彈じ風景明媚紀川沿岸に冠さり其東南に一島あり又其傍に一岩あり形ち富嶽よ似たり是れ富士崎の名ある所因なり一宇あり古岳庵と云ふもと繪江古岳の寓せし處にして當

時は外務大臣陸奥宗光氏の所有さり

（鎮西滿隆の城趾）河原村大字下井生谷にあり大内義弘曾て恩地左近をして高野寺領を掠めしむ滿隆時に山僧に與し左近を擊て之を走らし其地を復す

（宇野若狹守城趾）名手村大字名手市場にあり若狹守は天正年間の人なりと

（名手新藏人城趾）同地にあり新藏人と畠山に屬し永錄年間戰死す

（塩谷伊勢守墓碑）安樂川村大字市場にあり伊勢守は延文年間龍門山の戰に討死したり俗に塩塚と云ふ

（美福門院遺跡）調月村大字調月にあり門院薙髪の後奥近江守と隨へ此地ふ來り修禪尼寺ふ閑居し給ふ崩御の後遷

骨を高野山に葬る

（最初ヶ峰城趾）　最初ヶ峰は龍門山の西ゟ連れり此城と四條中納言隆俊の立籠りし所とす

（塘谷伊勢守城趾）　龍門山の半腹にあり太平記ゟ詳ゟ

（飯盛山城趾）　飯盛山ハ龍門山の東に連る建武元年四月北條高時の餘族此山上ゟ城柵を築て立籠る楠正成討て之を定む

（白岩谷）　中貴志村大字尼寺にあり磷々たる白石流れを挟んで相連る其形狀に依りて夫婦石、烏帽子岩、疊石等の名あり

（津田監物後裔の宅）　小倉村大字吐前にあり監物算長ハ楠正儀の裔なり小倉庄八ヶ村と領す天文十三年始て鐵砲を種子嶋に得て歸る之より我國内の人鐵砲を用ゐ知る足利義晴其効を賞し從五位下に叙す其後裔を津田監太郎氏と云ふ

（河野城趾）　下神野村大字福田ゟ河野氏の城趾三あり河野氏と其先伊豫の人河野四郎通信に出づ通信長曾我部の爲に敗られ此地に來る其子秀通信長高野を攻むるの時武功あり此地及ひ近傍七八ヶ村を領せしが秀吉の爲に沒收せらる子孫世々此處に住す今の河野學一郎氏と卽ち其苗裔なり

（不動温泉）　長谷毛原村大字毛原中なる腰打山の半腹ゟゟり採酌して浴用に供す單純泉にして温度五十三度とす

○神社佛閣

（一乘山根來寺大傳法院）　根來村大字西阪本根來山にあり

新義眞言宗の總本山とす往昔役優婆塞高城山に於て錬行の際自ら已れの像を刻み之と遺せり卽ち今の護摩堂は安置するもの之なり其後伊勢の人某此地に一宇を建立し豐福寺と號す之と當山最初の寺院とす降て長承元年僧覺鍛（興敎大師又正覺坊と號す肥前の人）高野山に於て大傳法院を草創し永治元年此地に移す卽ち今の大傳法院とす次て密嚴院及び圓明寺等を創建し一山の法燈益々明なり鳥羽上皇の信抑甚だ厚く長承三年十二月勅わり大傳法院の座主として高野山金剛峰寺の座主を兼ねしむ康治二年十二月十二日覺鍛圓明寺に於て入寂を以來高僧碩德相續て當山の座主となり高野山と相並んで法風益々盛んなり然るに建武以來海內大に亂れ干戈止む時なし當山に於て

も所謂行人なるもの猥りに甲冑を弄し遂に人の地を侵し他の領を奪ふに至る於是羽柴秀吉兵を率ひて來り攻め火を僧坊伽藍に放つ時に天正十三年三月二十一日一山二千七百餘宇悉く焦土と化す其殘す所の大傳法院は京都紫野の文藏司なるもの之を毀ち京都に移さんとし紀ノ川より之を和歌山に送り更に海路大阪に運ぶ秀吉聞て大に恐り文澂司をして悉く之を根來山に送還せしむ之よりして漸く再建の工を起す慶長年間淺野幸長本國に封せらるゝや方り當山の境域と定め山林濫伐を禁ず元和九年德川賴宣命じて寺法を制し一山の興隆と計る爾後歷代の國主或いは寺領を寄附し或は財を賜ひ回復の策を講ぜしむ是を以て法風再び盛んなりしが維新後又大に衰頽せり然れども今

尚ほ堂塔伽藍、人目を眩惑せしむ山内櫻樹多し艶陽三月花正に爛熳さるゝ方り來遊の客甚だ多し

（粉河寺）粉河村大字粉河風猛山にあり補陀落山施音寺と號す西國靈場第三の札所にして本堂は十五間に十四間千手觀音を本尊とし寶龜元年本郡の人大伴孔子古なるもの之を創建す後ち河内國澁河郡の佐伯某之を增築し又伊都郡澁田の孀婦某自宅を移して本堂とし本郡名手の某女も亦已の家を寄附して禮堂を建立す以來年を追て信徒大に增加し花山、白河二法皇の臨幸あり其他月鄕、雲客の寄進甚だ多く堂塔の數五百に餘りしが天正十三年秀吉の爲めに燬かれ又屢々失火あり今や最初の觀を呈せずと雖ども堂宇莊嚴僧坊宏大南海の一靈場たるを失はず境内溪流あり

粉川の水源にして大門前に於て中津川に合し村内を貫流して紀の川に入る

（粉河寺鎭守社）粉河寺境内本堂の後方壇上にあり若一王子權現及び丹生明神を祭る毎年陰曆六月十八日禮祭を行ふ神輿渡御の式甚だ嚴かにして粉河各町より臺車を出し賑を添ふ

（岩出の大宮）岩出村大字宮紀ノ川の北岸にあり熱田明神及ひ三部權現を祀る熱田明神は即ち日本武尊の靈にして尾州熱田神社より勸請せり三部權現は大治元年僧覺鍐根來山に伽藍を創建するに先ち之を創建し以て同山の鎭護とせり毎年八月晦日夜間に祭禮を行ふ遠近の男女大宮祭と唱へ群集するもの多し

（國分寺）池田村大字東國分にあり眞言宗よりて醫王院と號す天平年中之を創建す

（安國寺）田中村大字久留壁にあり曆應二年足利直義各州に安國寺を創建す當寺も其一なり

（長田の觀音）長田村大字別所にあり如意山道華院觀音寺と號す本尊は如意輪觀音にして大和街道と北に入ると一丁許の丘上にあり三重の塔高く雲際に聳へ伽藍の結構宏壯なり以前長田中よりしと寛文年中國主の命に依り今其地に移す俗に厄除觀音と稱し參詣の客甚だ多し

（國主神社）中貴志村大字國主にあり大國主命を祀る創建年月詳かならず嵯峨天皇の勅願に依り弘仁九年社殿を改造す其後天皇遊に臨幸し給ひ又後鳥羽上皇熊野幸行の際にも駐輿を寄せ給へり毎年三月例祭あり往時と貴志の大飯盛祭とて大桶に握り飯を盛り之を社前の深淵に投ぜたり

○交　通

大和街道は和歌山市より名草郡を過て本郡に入り岩手、名手市場と經て伊都郡に入る又淡路街道と粉河より名草郡を經て海部郡に至る共に縣道にして車を通せざる所なし

岩手驛は古來船渡しなりしが今や橋梁の架設あり又伊都郡の境と流る、穴伏川には妹背橋の架設あり水路にと紀ノ川の便あり上と奈良縣に達し下い和歌山市に至る

郵便局は九ヶ所にあり未だ電氣通信の便を得ず

○官　署